SOTEC

WinBook U300 series
ユーザーズガイド

ご使用になる前に

使ってみよう

周辺機器を使いこなす

ネットワーク(LAN)に接続する

システムの設定を変える(BIOS)

困ったときには

このマニュアルの見方

このたびは、ソーテックWinBookをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ソーテックWinBookは、高精細の大型液晶画面に加え、CD-R/RWドライブやステレオスピーカ、マイク、さらに光オーディオ出力などのマルチメディア機能を標準で搭載するなど、Windowsを活用するための数多くの機能をコンパクトなA4ファイルサイズで実現しています。

このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を6つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBookを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

また、別冊の「ファーストステップガイド」にしたがって、機器の接続を終了させ、Windows Meが起動できるようにセットアップを完了しておいてください。

Windowsの起動後にデスクトップ画面に表示される「始めにお読みください」は、必ずお読みください。
この中には、WinBookを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windowsを再インストールする場合は「始めにお読みください」に書かれているとおりにドライバーソフトなどのインストールを行わないとWinBookの性能を充分発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

各ページの構成

1 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

カバーの開け閉め

step 1

ご使用になる前に

カバーを開けるときは、手前のラッチを右へスライドして、見やすい角度まで開きます。

カバーを閉じるときは、ディスプレイカバーラッチがロックされるようにします。

前面/左側面

❶ディスプレイカバーラッチ
❷ディスプレイ
❸ワンタッチボタン
❹マイク
❺ステータスLED
❻ステレオスピーカ
❼タッチパッドボタン
❽タッチパッド
❾PCカードイジェクトボタン
❿PCカードスロット
⓫通風孔
⓬DC入力コネクタ
⓭電源スイッチ
⓮キーボード

注意 ステータスランプ上のHDDランプおよびFDDランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊されるおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。

12

このページは、構成の説明用に作成したもので、実際のページとは異なります。

インデックス

各章ごとに区切られています。

大見出し

この項目の概要

中見出し

補足的な説明や、知っておくと便利なポイントです。

操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントです。

さらに高度な使い方について説明します。

知っておいていただきたい用語の意味と読み方です。

●その他の記号

☞参照ページ

その単語の詳細が別ページに紹介、または説明されています。本文とあわせてご覧ください。

アプリケーション名などの表記について

このユーザーズガイドで使用しているアプリケーション名などの正式名称は以下の通りです。

·Windows ·Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition 日本語版
·Windows2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版

本製品を正しく安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠**警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠**注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜け」という意味です。

⚠ 警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。
100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。
火災や感電の原因となります。また、無償補修の対象外となります。修理は弊社テクニカルサポートセンタにご相談ください。

電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。
弊社テクニカルサポートセンタにご相談ください。

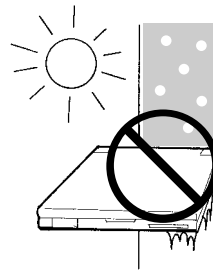
⚠ 注意

●ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

●落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。

●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。

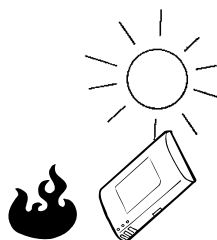
●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。

●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～30℃)/使用周囲湿度(20～80%)を超える範囲では使用・保存しないでください。

●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。(発熱することは異常ではありません。)

●タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。

●タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

⚠ 警告

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。
また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。発熱・発火・破裂の原因になります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれているので、分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。

●バッテリから液が漏れて、液が眼に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれているので、分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

⚠ 注意

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(＋と－の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

⚠ 注意

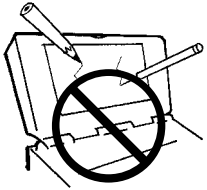
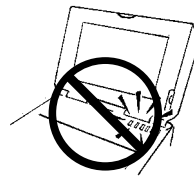
●バッテリを水や、海水につけたり、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないで、弊社テクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているか確認してください。

●バッテリは乳幼児の手の届かぬ所へ保管し、使用するときも、乳幼児が機器からバッテリを取り出さぬよう注意してください。

●使用済のバッテリは、端子にテープなどを貼り、絶縁して廃棄してください。

お願い

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。

●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

●本製品にインストールされているWindows、および各種ユーティリティソフトが収録されているCD-ROMは大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取りください。

お手入れについて

●液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～30°C)の環境に放置した後、お使いください。

目　次

Step1
ご使用になる前に

Step2
使ってみよう

Step3
周辺機器を使いこなす

Step4
ネットワーク(LAN)に接続する

Step5
システムの設定を変える(BIOS)

Step6
困ったときには

付　録

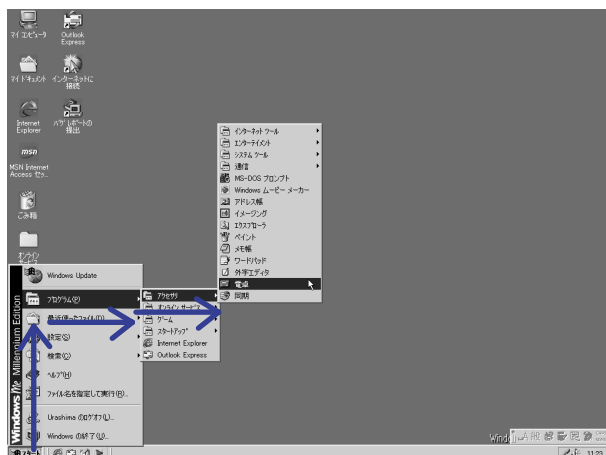
このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく 6 つのセクションに分けられています。

WinBook を使うのは初めてという方は、「Step1 ご使用になる前に」および「Step2 使ってみよう」をまずお読みください。タッチパッド、キーボード、CD-R/RW ドライブなどの使い方を説明していますので、WinBook を一通り使いこなすための知識がみにつきます。

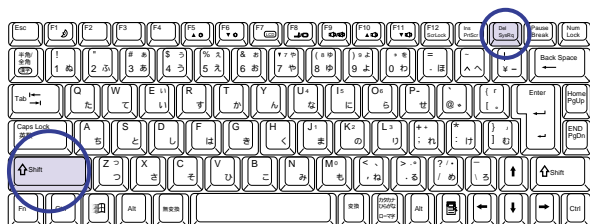
スキャナ、PC カードを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「Step3 周辺機器を使いこなす」、「Step4 ネットワーク(LAN)に接続する」をお読みください。

また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「Step5 システムの設定を変える(BIOS)」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「Step6 困ったときには」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなるでしょう。

操作の表記について

次々とメニューを選択していく動作を本書では「→」を使って省略している箇所があります。
例えば、左画面のように、スタートボタンから電卓までを選ぶ動作を、

[スタート]ボタン→[プログラム]→[アクセサリ]→[電卓]

と表記しています。

何かのキーを押しながら、他のキーを押す動作を本書では「＋」を使って省略しています。
例えば、左図のように、SHIFT（シフト）キーを押しながら、DELETE（デリート）キーを押す動作を、

と表記しています。

また、キーボード上の絵は、次のように簡略化して表現しています。

キー表記とキーボードの対応表

本書の表記	実際のキー
Esc	Esc
Tab	Tab
Ctrl	Ctrl
Shift	⇧Shift
Alt	Alt
Space	
Enter↵	Enter

本書の表記	実際のキー
BackSpace	Back Space
Insert	Ins PrtScr
Delete	Del SysRq
Home	Home PgUp
End	End PgDn
↑ ↓ ← →	↑ ↓ ← →
PageUp	Home PgUp

本書の表記	実際のキー
PageDown	End PgDn
F 1 F 2 •••	F1 F2 •••
変換	変換
半角/全角	半角/全角 漢字
NumLk	Num Lock

Step 1
ご使用になる前に

本体各部の名前とはたらき、および付属のバッテリパックとACアダプタを取り付けて電源を入れるまでを説明しています。これからWinBookを使いこなしていくために基本的なことがらを説明しています。必ずお読みください。

1 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

カバーの開け閉め

カバーを開けるときは、手前のラッチを右へスライドして、見やすい角度まで開きます。

カバーを閉じるときは、ディスプレイカバーラッチがロックされるようにします。

前面/左側面

❶ ディスプレイカバーラッチ
ラッチを右へスライドして、見やすい角度までディスプレイを開けます。

❷ ディスプレイ
文字やグラフィックが表示されます。
省電力機能(☞ 47 ページ)の設定によりパソコンが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。

❸ ワンタッチボタン
Windows が起動している状態でこれらのボタンを押すと、アプリケーションソフトが起動します。
(☞ 32 ページ)

❹ 内蔵モノラルマイク
音声をコンピュータに取り込むことができます。
(☞ 40 ページ)

❺ ステータス LED
パソコンの動作状態を表示します。
(☞ 17 ページ)

❻ ステレオスピーカ
ステレオスピーカです。(☞ 40 ページ)

❼ タッチパッドボタン
それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(☞ 26 ページ)

❽ タッチパッド
指を軽くのせて動かすと、Windows のカーソルが移動します。(☞ 26 ページ)

❾PC カードイジェクトボタン
PC カードスロットに挿入した PC カードを取り出すボタンです。(☞ 65 ページ)

❿PC カードスロット
PCMCIA 規格準拠の PC カードを装着します。
(☞ 63 ページ)

⓫通風孔
内部の熱を外に排出するための穴です。

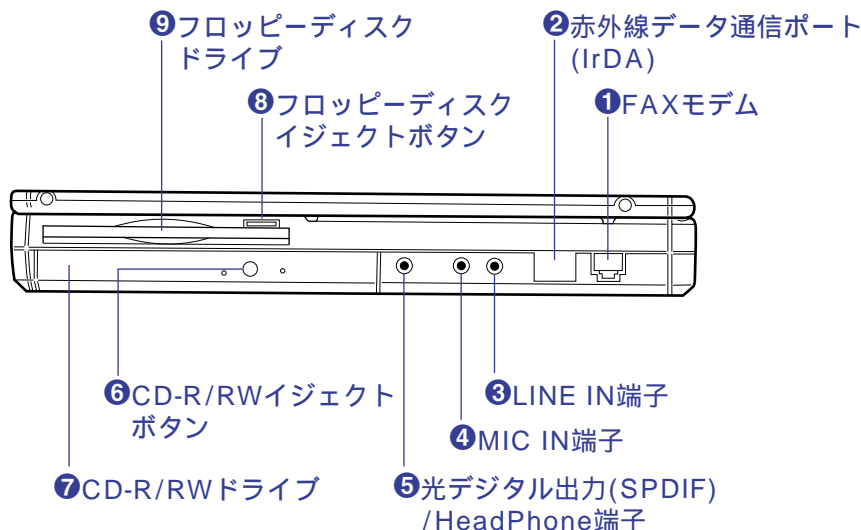
⓬DC 入力コネクタ
付属の AC アダプタを接続します。
(☞ 18 ページ)

⓭ 電源スイッチ
電源を ON/OFF することができます。(☞ 22 ページ)
また、電源スイッチを押したときに、省電力モードに入るように設定することもできます。(☞ 47 ページ)

⓮ キーボード
キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。(☞ 28 ページ)

HDD LED、CD-R/RW LED および FDD LED が点灯しているときに電源を OFF にしたりリセットさせないでください。データが破壊されるおそれがあります。また、電源を OFF にした後、再び電源を ON にする場合は 5 秒以上待ってください。

右側面

ディスプレイカバーラッチを右へスライドしながら、ディスプレイを開けてください。

❶FAX モデム
56Kbps 通信が可能な V.90 規格に対応した内蔵モデムです。(☞ 44 ページ)

❷ 赤外線データ通信ポート(IrDA)
他の赤外線データ通信ポート(IrDA)を持つパソコンや、プリンタなどに、大量のデータを高速に伝送するためのポートです。

❸LINE IN 端子
外部オーディオ機器を接続し、音声をパソコンに取り込みます。(☞ 40 ページ)

❹MIC IN 端子
マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。
(☞ 40 ページ)

❺ 光デジタル出力(SPDIF)/HeadPhone 端子
光デジタル入力端子を持つオーディオ機器や、ヘッドフォン、スピーカなどを接続します。(☞ 40 ページ)

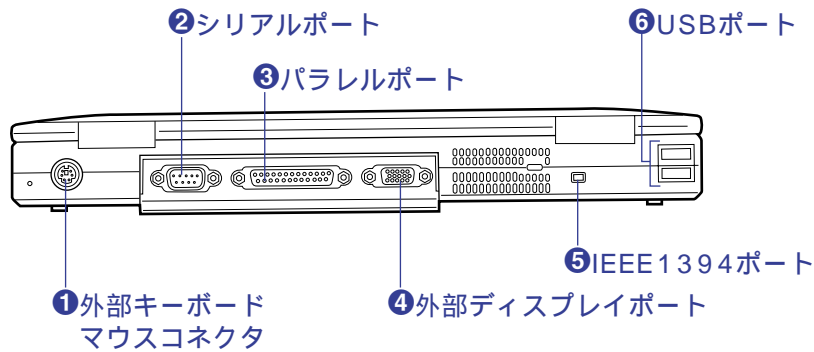
❻CD-R/RW イジェクトボタン
CD-R/RW ドライブに CD-ROM などを挿入するとき、または取り出すときに押すボタンです。
(☞ 36 ページ)

❼CD-R/RW ドライブ
CD-R/RW メディア、または CD-ROM を挿入します。
(☞ 36 ページ)

❽ フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクドライブに挿入したフロッピーディスクを取り出すボタンです。
(☞ 35 ページ)

❾ フロッピーディスクドライブ
フロッピーディスクを挿入します。
(☞ 35 ページ)

後　面

ディスプレイカバーラッチを右へスライドしながら、ディスプレイを開けてください。

❶ 外部キーボードマウスコネクタ

PS/2 キーボードやマウスを接続することができます。
(☞ 75 ページ)

❷ シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。

❸ パラレルポート

プリンタなどのパラレルポートを使う周辺機器に接続します。(☞ 54 ページ)

❹ 外部ディスプレイポート

外部 CRT ディスプレイを接続します。
(☞ 76 ページ)

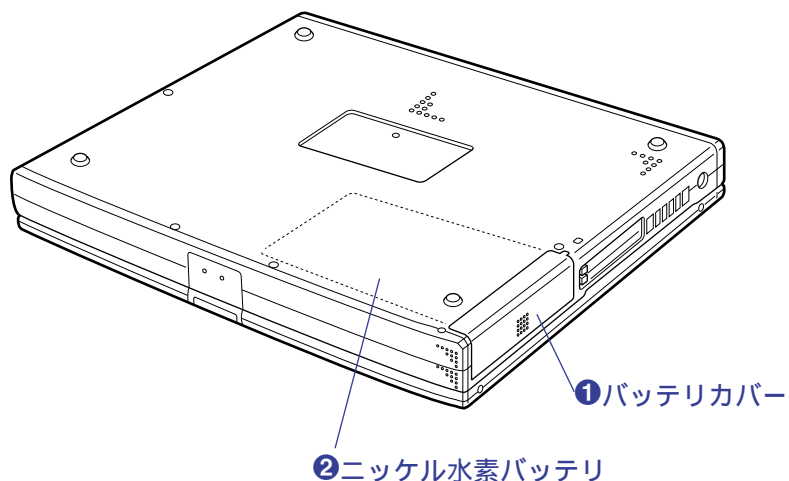
❺IEEE1394 ポート(4 ピン)

DV 端子付きのデジタルビデオなど、IEEE1394 機器を接続します。
(☞ 61 ページ)

❻USB ポート

USB 規格準拠の周辺機器を接続します。
(☞ 66 ページ)

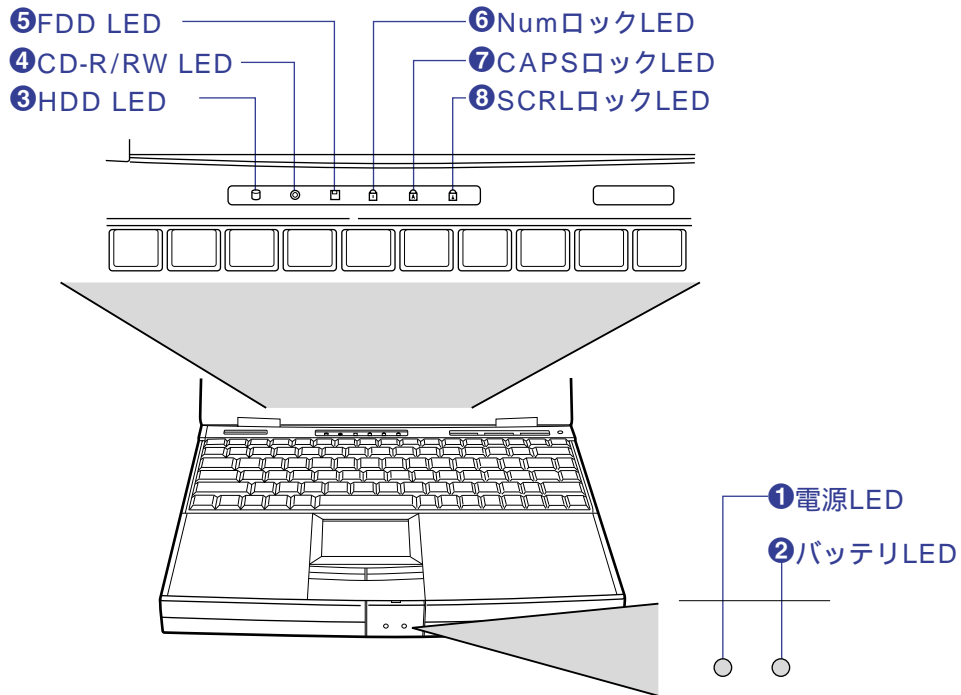
底　面

❶ バッテリカバー

バッテリを取り外すときに、このカバーを外します。
(☞ 20 ページ)

❷ ニッケル水素バッテリ

AC 電源が無いような場所でパソコンを動作させるためのバッテリです。
(☞ 20 ページ)

ステータスLEDについて

パソコンの動作状態をステータスLEDで表します。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。

❶ 電源LED

パソコンの電源状態を表示します。
(☞ 19ページ)

❷ バッテリLED

バッテリの充電･放電状態を表示します。
(☞ 19ページ)

❸HDD LED

ハードディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❹CD-R/RW LED

CD-R/RWドライブのアクセス中に点灯します。

❺FDD LED

フロッピーディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❻Numロック LED

Num Lock キーがロック状態のときに点灯します。

❼CAPSロック LED

Caps Lock キーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

❽SCRLロック LED

ScrLock キーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

HDD LED、CD-R/RW LEDおよびFDD LEDが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は5秒以上待ってください。

2 AC アダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属の AC アダプタを使って AC コンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の 2 通りあります。

初めて使うときは・・・

バッテリはフルに充電されていない状態(十分に充電されていない状態)で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、AC アダプタを接続してご使用ください。

step 1

ご使用になる前に

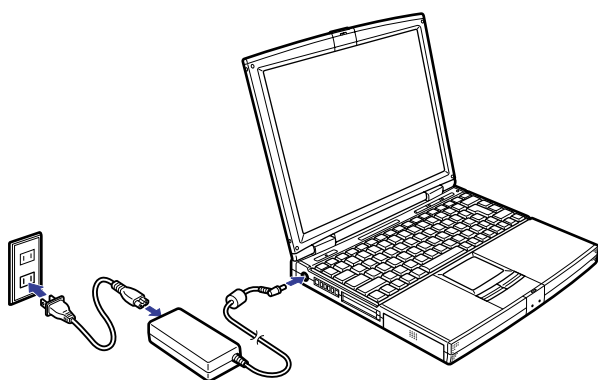
AC アダプタの接続と充電

AC アダプタは、AC コンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

付属の AC アダプタ以外は、絶対に使用しないでください。
火災・感電の恐れがあります。

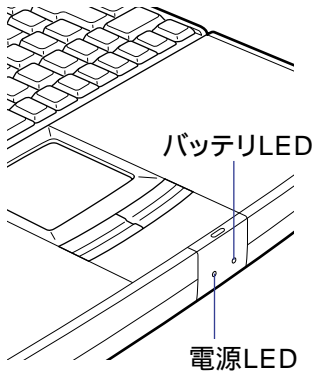
1

AC アダプタのプラグを、本体側面の DC 入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方を AC コンセントに接続すると、バッテリ LED( )が点灯し、充電が始まります。

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、約 3 時間かかります。

使用できる AC 電源は何ボルト?

本製品に添付の AC アダプタは、100V から 240V まで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。

2

約 3 時間後、バッテリ LED( )が消灯したら充電は終わりです。
バッテリのみでお使いのときは AC アダプタを取り外してください。
AC 電源でお使いのときは、このまま AC アダプタを接続したままでお使いください。

電源LEDの意味

緑色の点灯	電源がONの状態です。
緑色の点滅	スタンバイの状態です。(☞47ページ)
消灯	電源がOFF、または休止状態(ハイバネーション)(☞49ページ)の状態です。

バッテリLEDの意味

橙色の点灯	バッテリが充電中の状態です。
橙色の点滅	バッテリがエラーを起こしている状態です。 バッテリを取り付けなおしてください。
消灯	ACアダプタが接続されていない、もしくはバッテリがフルに充電されている状態です。

バッテリ残量が少なくなったときは・・・

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順序で警告を発します。

バッテリ残量が少ない ▶ 警告音が4秒おきに鳴ります。

バッテリ残量がかなり少ない ▶ 警告音が2秒おきに鳴ります。

警告が発せられたら・・・

- ●ACアダプタを接続して充電する
- ●電源をOFFにした後、充電済みのバッテリパックと交換する

バッテリを節約するには・・・

- ・**輝度やコントラストを小さくする。**
- ・**パワーマネージメント機能を活かす。**
- ・**サスペンド機能を有効にする。**
- ・**なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。**

バッテリの警告音を止めるには・・・

バッテリの残量が少なくなると警告音が鳴ります。警告音を止めるには Fn+F9 を押します。

- ・**バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず次の「バッテリパックの交換」の説明にしたがって交換してください。**
- ・**バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。ビープ音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。**

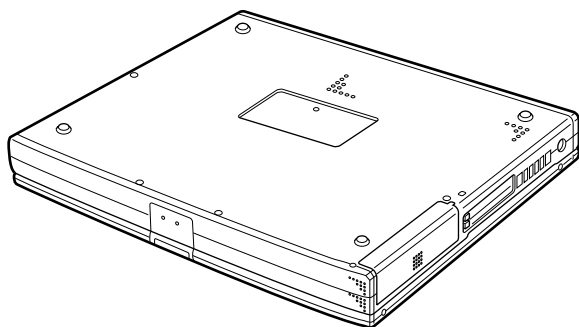
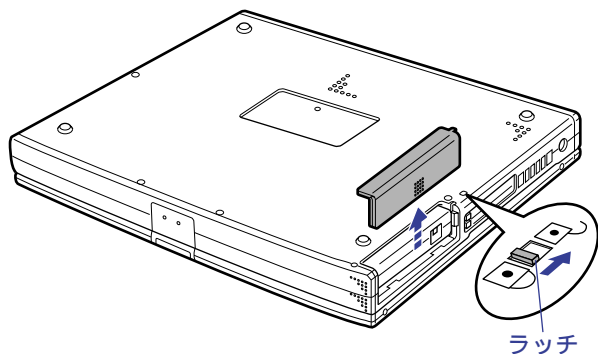
ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こすおそれがあります。

バッテリパックの交換

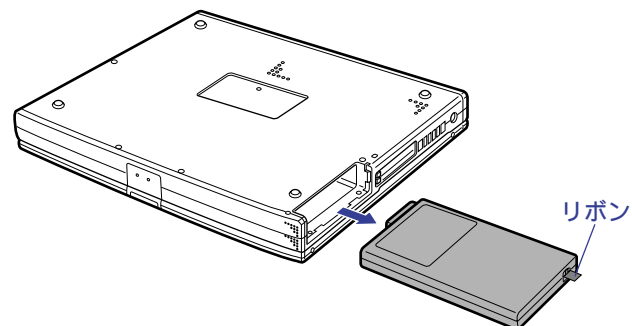
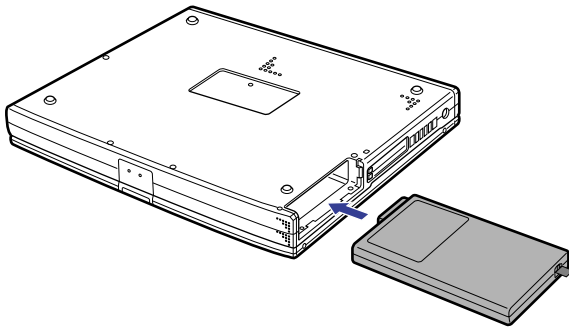
警 告

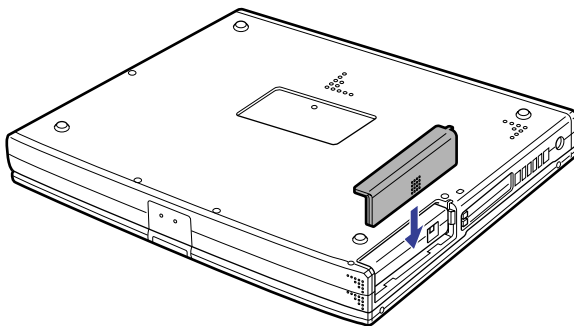
付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります。

「本製品を正しく安全にお使いいただくために」(☞ 2 ～ 5 ページ)も必ずお読みください。

バッテリパックの交換は、電源が OFF のときしかできません。交換の前には、電源 LED が消灯している事を確かめてください。

1 **ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。**

2 **バッテリカバーのラッチを矢印の方向にスライドさせながら、バッテリカバーを、取り外します。**

3 **バッテリパックに付いているリボンを引っぱり、スライドさせて取り外します。**

4

交換用のバッテリパックをスロットに挿入します。

5

バッテリパックが確実に装着されているのを確認した後、バッテリカバーを取り付けます。

ABC 用語

サスペンド

サスペンド機能とはアプリケーションの実行中に電源を OFF にすると現在の状態をメモリに保存し、電源を ON にしたときには、OFF にする直前と同じ状態で動作させる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、サスペンド状態であっても、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能の設定方法は、「サスペンド機能を利用する」の項目をご覧ください。**(☞ 47 ページ)**

3 電源を入れる

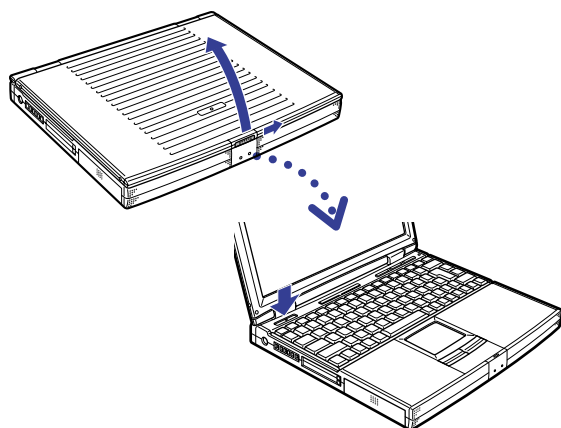
機器の接続を確認したら、電源を入れてみましょう。機器の接続については、別冊のファーストステップガイドをご覧ください。

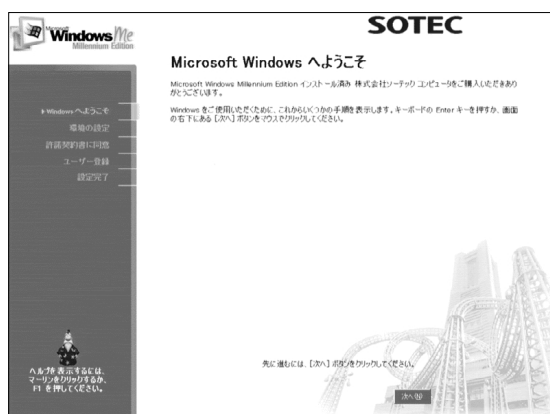
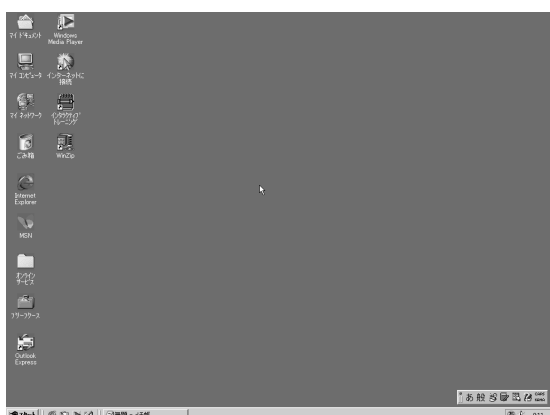
初めて電源を入れたときは

ご購入後はじめて電源を入れたとき、または何らかの不具合によりリカバリ CD を使用して Windows Me を再インストールした直後は、Windows Me セットアップが始まります。画面に表示される指示にしたがって、Windows Me セットアップを終了させてください。

1

機器の接続を確認した後、本体の前面にあるラッチを右へスライドしてカバーを開け、パソコンの電源を入れます。

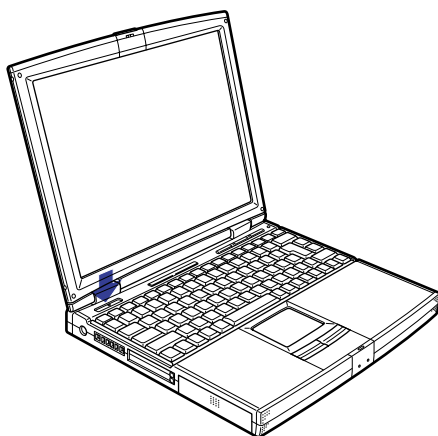
2

しばらくすると、Windows Me セットアップが起動します。

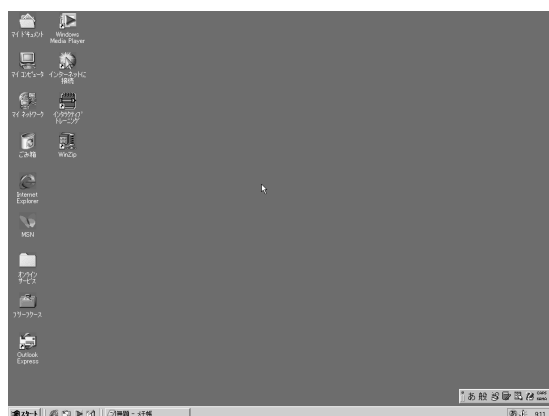
3

画面に表示される指示に従って、Windows Me セットアップを終了させると、Windows Me のデスクトップ画面が表示されます。

アドバイス

Windows Me セットアップの手順について、詳しい内容は「ファーストステップガイド」をご覧ください。

2 回目に電源を入れたときは

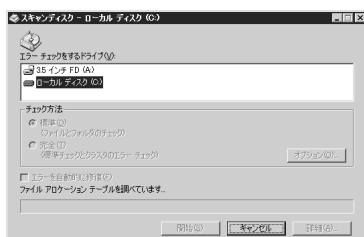
Windows Me セットアップを終了させておけば、次に電源を入れたときに、そのまま Windows Me のデスクトップ画面が表示されます。

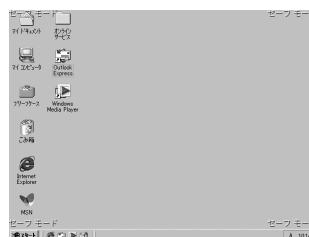
1

機器の接続を確認した後、パソコンの電源を入れます。

2

しばらくすると、Windows Me のデスクトップ画面が表示されます。

- **パスワードを入力する場合、パスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。**
- **リカバリ CD を CD-R/RW ドライブにいれたまま電源を入れた場合、本機はリカバリ CD から立ち上がります。その場合、画面の指示に従い、再インストールを中断した後、リカバリ CD を取り出してから再起動してください。**

次の画面が表示されたときは

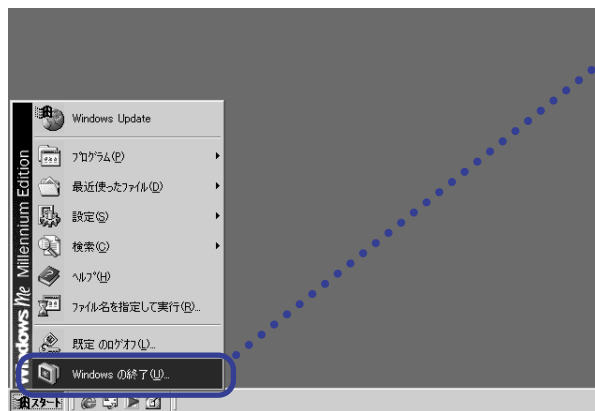
■スキャンディスクの画面

パソコンの電源を切るときに、正しい方法で Windows Me を終了しなかったときに表示されます。スキャンディスクのプログラムはパソコンのハードディスクに異常がないかチェックします。異常が見つかった場合は、スキャンディスクのメッセージに従って操作し、復旧してください。

■ safe モードの画面

新しく接続した周辺機器がパソコンに認識されないなどの原因で、Windows Me が正常に起動できなくなった場合に表示されます。対処方法については「困ったときには」をご覧ください。

4 電源を切る

パソコンを使い終わったら、電源を切りましょう。
少し休憩する間などパソコンの消費電力を抑えたいときは、省電力機能(☞47ページ)を使用することもできます。

電源を切る

1

[スタート]ボタンから［Windows の終了］を選択します。

キーボードで Windows を終了させる場合は、⊞キーを押し、↑キーで[Windows の終了]を選択したあと、↵キーを押します。

2

▼ボタンで「終了」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

キーボードで操作する場合は Tab キーでボックスを選択した後、↓キーで「終了」を選択します。再度、Tab キーで[OK]ボタンを選択し、↵キーを押します。

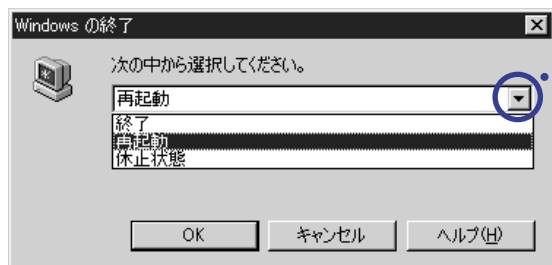
「スタンバイ」と「休止状態」の使い方については、47 ページをご覧ください。

自動的に本体の電源が切れます。周辺機器の電源も必要に応じて切ります。

注意

いきなり電源スイッチを押して電源を切る動作を繰り返すと、Windows Me のシステムが壊れて、Windows Me の再インストールが必要になることがあります。電源を切るときは正しい手順で操作してください。

電源を切らずに再起動させる

デバイスドライバ(☞ 59 ページ)のインストールが終了した後や、Windows の動作が不安定(画面が乱れたり、画面が動かない)になったときは、[Windows の終了]画面から「再起動」を選択し、Windows を再起動させます。

[Windows の終了]画面から「再起動」を選択します。

アドバイス

マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、再起動のメニューを選択できないときは、Ctrl ＋ Alt ＋ Delete キーを同時に押して、再起動ができます。この場合、再起動後にスキャンディスクが実行されるので、表示される指示に従って操作してください。

Step2
使ってみよう

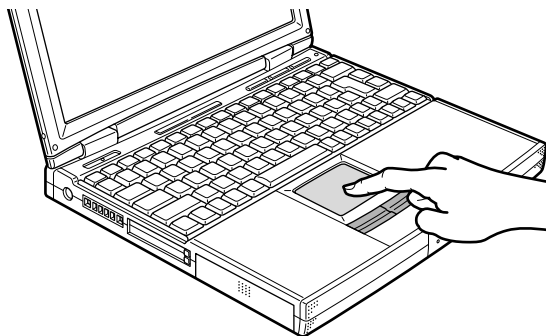
タッチパッド、キーボード、CD-R/RWドライブなど、WinBookが標準で持っている機能について、基本的な使い方および注意事項を説明しています。また、サスペンド機能といった省電力機能の使い方についても説明しています。WinBookを初めて使う方は、必ずお読みください。

1 タッチパッドを使ってみよう

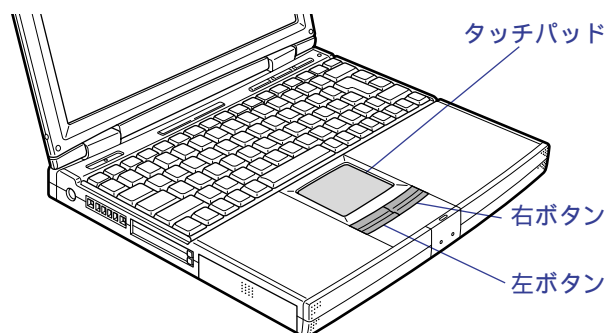
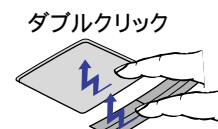
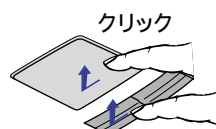
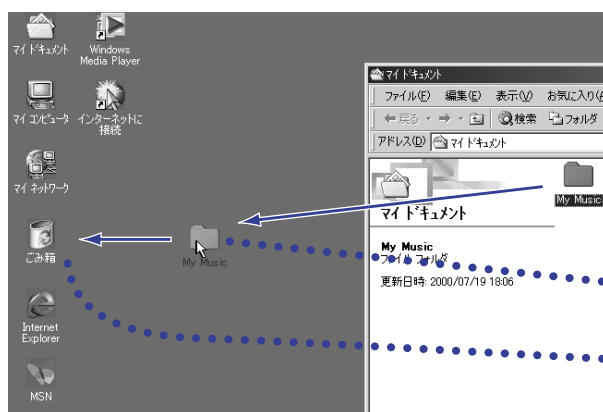
本製品には、マウスと同じ機能を持つ「タッチパッド」と左右 2 つのボタンが装備されています。Windows では、これらを使って画面上のマウスポインタ（マウスカーソルともいう）を動かしたりクリックすることができます。

- **タッチパッドをペン先などの先の尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。**
- **2 本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂や汚れによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、十分に汚れを取りのぞいてからご使用ください。**
- **ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。**

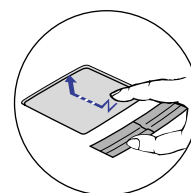
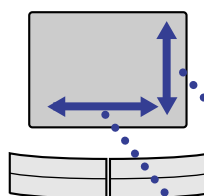
タッチパッドの機能と名称

タッチパッドは、本製品のキーボードの手前中央にあります。タッチパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

本製品のタッチパッドには次のような機能と名称があります。

タッチパッドの操作方法

■クリックとダブルクリック

クリックとは、ボタンを 1 回押すことです。タッチパッド上を 1 回たたくことでもクリックできます。
ダブルクリックとは、ボタンを 2 回押すことです。タッチパッド上を 2 回たたくことでもダブルクリックできます。

■ドラッグ＆ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだままの状態で別の場所に動かすことです。ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、目的の場所に置くことです。ドラッグはアイコンなどの上にポインタを移動し、左ボタンを押し続けたまま（またはタッチパッドを 2 回たたき）、指をタッチパッドから離さず動かしていきます。

左ボタンを押したまま動かす

ボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入る

■スクロール

ウィンドウ内を上下もしくは左右にスクロールするときは、タッチパッドを次のように操作します。

上下にスクロール
タッチパッドの右端を上下に指でなぞると、上下にスクロールします。

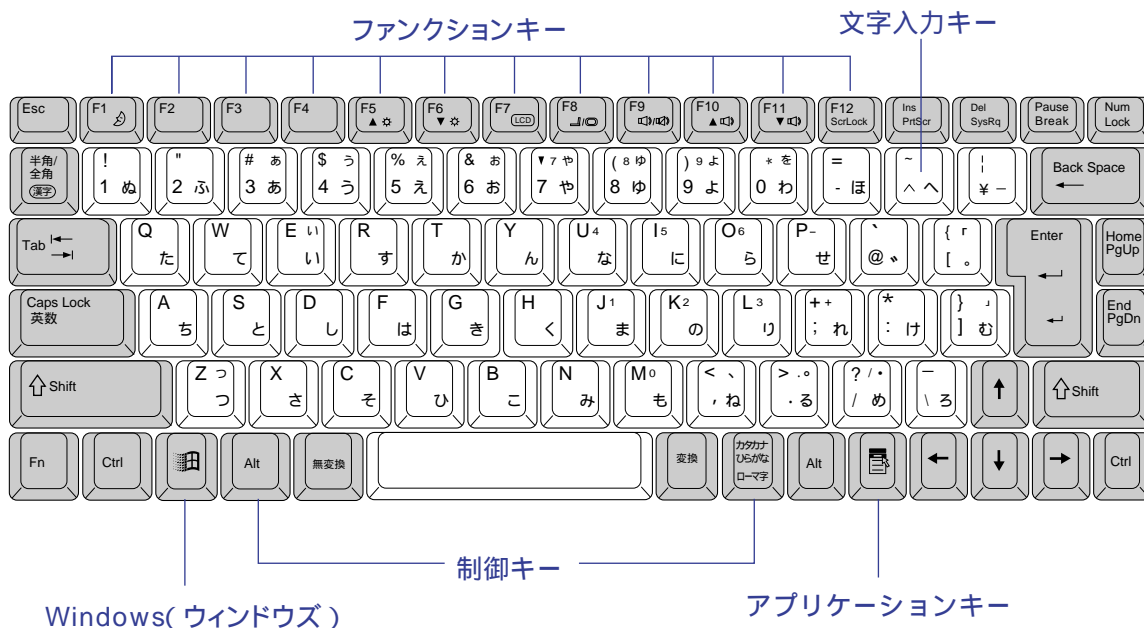
左右にスクロール
タッチパッドの下を左右に指でなぞると、左右にスクロールします。

画面が下にスクロールする

タスクトレイ上にあるタッチパッドのアイコンをダブルクリックすると、[マウスのプロパティ]の画面が表示され、タッチパッドの動きをカスタマイズできます。

2 キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーは、その機能によって大きく 5 つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。

■ Windows キー

単独で押すと Windows Me の「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows Me の代表的な機能がすぐに使えます。

[Windows]+[F1]	Windows Me のヘルプを表示
[Windows]+[M]	ウィンドウの最小化
[Windows]+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
[Windows]+[R]	「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを表示
[Windows]+[E]	マイコンピュータを起動
[Windows]+[F]	ファイルとフォルダ検索を起動
[Windows]+[Pause]	「システムのプロパティ」ダイアログボックスを表示
[Windows]+[Ctrl]+[F]	パソコンの検索画面を起動

■アプリケーションキー

マウスの右ボタンに相当する機能があります。使用するアプリケーションによって動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

■制御キー（薄いアミ部分）

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、パソコンに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。
これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。

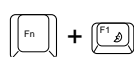
■文字入力キー

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。
1 つのキーに 2 つ以上の文字が割り当てられており、[CapsLock] [Shift] [NumLock] [ひらがな] [カタカナ] の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

ファンクションキー(アミの部分)

制御キーの一つである Fn キーとファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、コントラストを調節できます。

スタンバイモードに入る

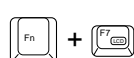
Fn + F1

F1キーを 1 回押すと、スタンバイモード(☞ 47 ページ)に入ります。

輝度を調整する

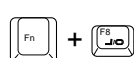
Fn + F5 / F6

F5 キーを押すごとにディスプレイの輝度が増大、F6キーを押すごとにディスプレイの輝度が減少されます。

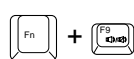
液晶ディスプレイのバックライトを消灯します

Fn + F7

F7 キーを押すと、ディスプレイのバックライトを消灯します。

本体ディスプレイ表示か外部ディスプレイ表示かを切り替える

Fn + F8

F8 キーを 1 回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。(☞ 76 ページ)

バッテリの警告音(ビープ音)を止めます

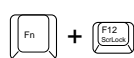
Fn + F9

F9 キーを 1 回押すと、バッテリの警告音が止まります。

スピーカ音量を調節する。

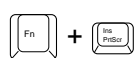
Fn + F10 / F11

F10 キーを押すごとに、内蔵スピーカから出る音が増大、F11 キーを押すごとに音量が減少します。

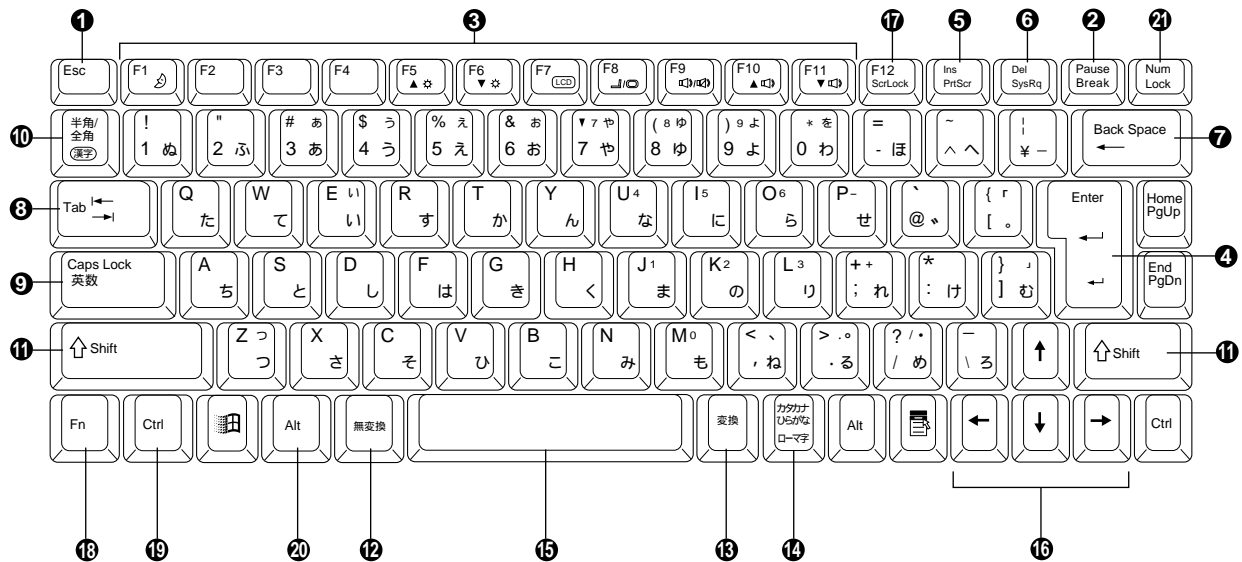
スクロールロックをする

Fn + F12 ScrLock

F12 キーを 1 回押すと、スクロールがロックされます。

画面のハードコピー、またはWindows の画面の取り込みをする

Fn + Ins PrtScr

PrtScr キーを 1 回押すと、表示されている画面を取り込んで、クリップボードに転送します。

各キーの機能

ここでは、キーボードの各キーの名称と機能を説明しています。

中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ ESC(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷ Pause Break(ポーズ　ブレイク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ ファンクションキー

F1から F12 までの 12 個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹ Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行することができます。

文字を編集するときに使います。

❺ Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1 回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❻ Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の一文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❼ BackSpace(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の一文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

❽ Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shift+Tab キーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

少し勉強

ロック状態について

キーには、1 回押すごとに状態が固定され、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの 2 通りあります。ロックされるキーの中でも右の 3 種類のキーは、ロック状態になるとステータス LED が点灯します。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❾ **Caps Lock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】**
アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shift キーと同時に 1 回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

❿ **半角/全角キー【ロックされます】**
文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows Me の日本語入力システム Microsoft IME 2000 では、1 回押すごとに「日本語入力モード」がオン、オフになります。また、Alt キーを押しながらこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓫ **Shift(シフト)キー**
他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓬ **無変換キー**
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくないときに、このキーを押すとモードが変わります。

⓭ **変換キー**
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓮ **カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】**
「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときは Shift キーと同時に押すと切り替わります。また、Ctrl Shift キーと同時に押すとカナキーの ON ／ OFF を切り替えることができます。

⓯ **スペースキー**
文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース（空白）を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⓰ **カーソルキー**
通常、キーに表記されている矢印の方向にカーソルを移動するときに使います。

⓱ **Scroll Lock(スクロール ロック)キー**
キーを押したときの動作は各アプリケーションにより異なりますが、通常、Fn キーと同時に押すとカーソルキーの動きを変えることができます。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

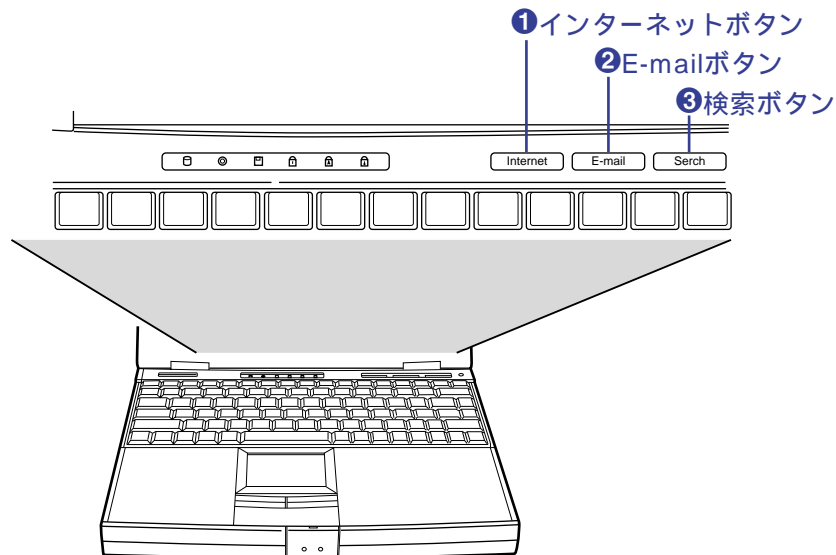
⓲ **Fn(エフエヌ)キー(☞ 29 ページ)**
キーボード上に青い文字で表記されている機能を使うときに、同時に押します。

⓳ **Ctrl(コントロール)キー**
文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

⓴ **Alt(オルト)キー**
オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

㉑ **Num Lock(ナンバーロック)キー(☞ 33 ページ)**
1 回押すと、キーボードの右半分をテンキーとして利用できます。

ワンタッチボタン

ボタンを押すと、ワンタッチで次の機能が使用できます。

❶ インターネットボタン

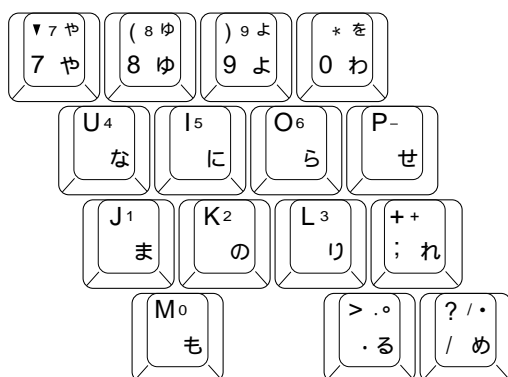
このボタンを押すと、Internet Explorer が起動します。

❷E-mail ボタン

このボタンを押すと、Outlook Express が起動します。

❸ 検索ボタン

このボタンを押すと、Internet Explorer 起動時は Web ページの検索、エクスプローラ起動中はファイルとフォルダの検索機能が起動します。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、キーを押すことで、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができます。

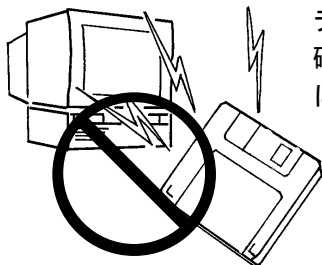
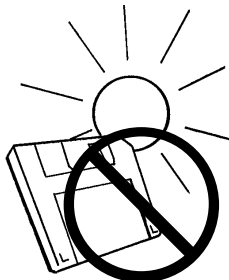
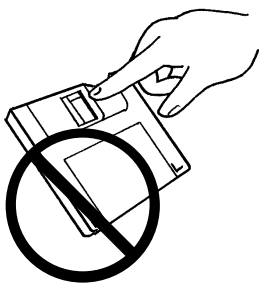
アドバイス

外部キーボードマウスコネクタに外部キーボードが接続されているときには、テンキー機能は使用できません。

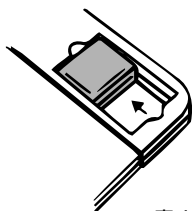
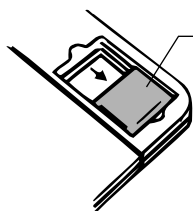
3 フロッピーディスクを使ってみよう

本製品には、3.5 インチフロッピーディスクドライブが付属しています。ここでは、フロッピーディスクを取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

■フロッピーディスクを使うときの注意

3.5 インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、パソコンの電源をオフにする前に必ずドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。

特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。

内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。

ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

データを書き込み禁止にする

書き込み可能状態

書き込み禁止状態

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。ライトプロテクトを行なうにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。

●書き込み禁止ノッチが"上側"になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます

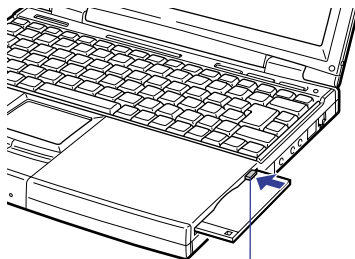
●書き込み禁止ノッチが"下側"になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

アドバイス

フロッピーディスクの種類について
本機のフロッピーディスクドライブは、「3.5 インチ 2HD タイプ」と「3.5 インチ 2DD タイプ」のフロッピーディスクが使用できます。それ以外のフロッピーディスクは使用できませんので注意してください。

用語

2HD と 2DD
2HD は「両面高密度倍トラックタイプ」、2DD は「両面倍密度倍トラックタイプ」の略です。2HD には 1.44MB の、2DD には 720KB のディスク容量があります。

フロッピーディスクドライブへの出し入れ

フロッピーディスクイジェクトボタン

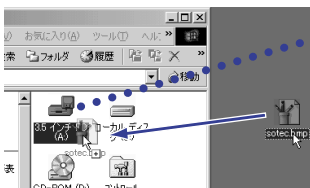
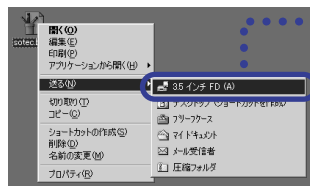
フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にして、ドライブの中に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、フロッピーディスクイジェクトボタンが飛び出します。

フロッピーディスクを取り出すときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押してください。
フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

注意

フロッピーディスクを取り出すときは、FDD LED が点灯していないことを確認してから取り出してください。点灯しているときに取り出すと、フロッピーディスクのデータを破損する恐れがあります。

ファイルをフロッピーディスクにコピーする

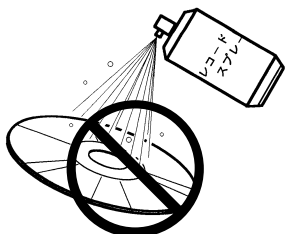
ファイルをフロッピーディスクにコピーするには、次の 2 通りの方法があります。

[マイコンピュータ]の中にある[3.5 インチ FD]のアイコンに、ファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルを選択した状態で左クリックして表示されるメニューから、「送る」→「3.5 インチ FD」を選択します。

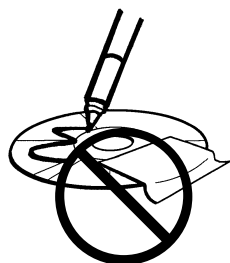
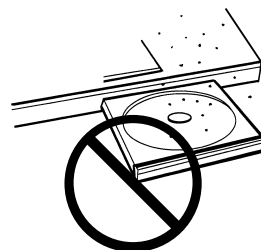
操作後、フロッピーディスクにファイルがコピーされます。

4 CD-ROMを使ってみよう

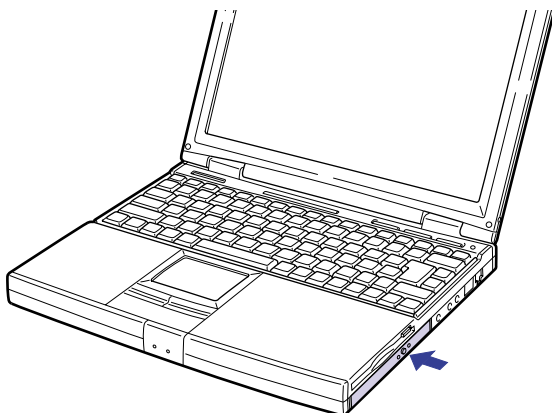
ここでは、CD-ROM、CD-R/RWを使う方法について説明します。本機では、CD-R/RWドライブでCD-ROMの再生およびCD-R/RWディスクの編集ができます。

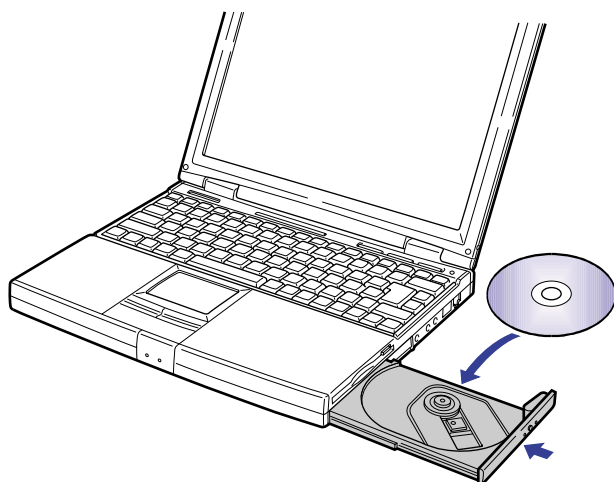
■ CD-ROM、CD-R/RWを使うときの注意

CD-ROMドライブおよびCD-R/RWドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMおよびCD-R/RWディスクを使わない場合は、必ず、パソコンの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必らずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

記録面にラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。

CD-ROM、CD-R/RWディスクの出し入れ

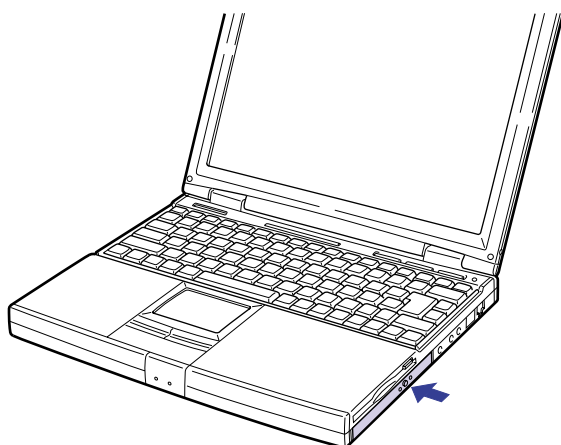
1

パソコン本体の電源がONになっているのを確認してから、CD-R/RWイジェクトボタンを押します。

2

CD-ROM または CD-R/RW をセットします。文字が書かれている面を上にして、トレーに CD-ROM または CD-R/RW を確実に固定してください。

CD-ROM はトレイの中心部で固定するようになっています。「カチッ」という音がするまで確実に CD-ROM をトレイにセットしてください。

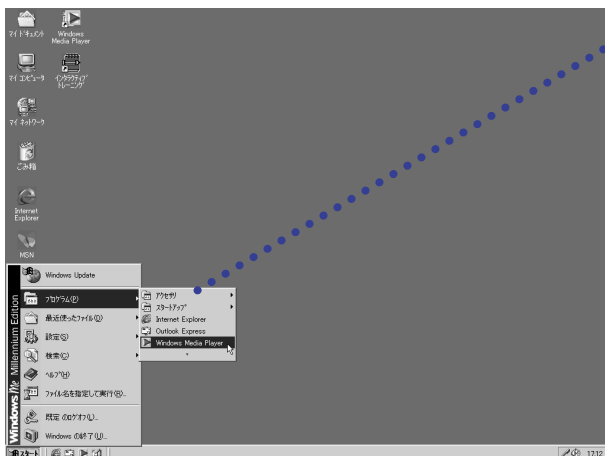
3

トレイを押し込みます。

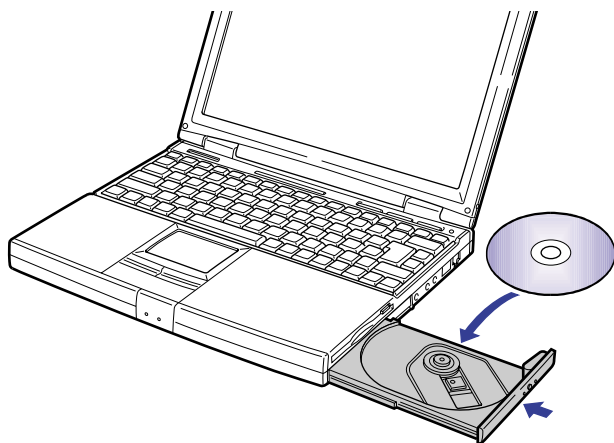
4

CD-ROM または CD-R/RW を取り出すときは、再度 CD-R/RW イジェクトボタンを押します。

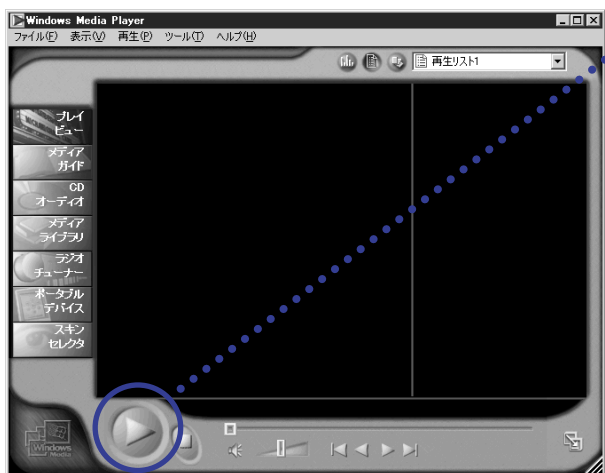
音楽CDを聴く(Media Player)

音楽CDをCD-R/RWドライブに入れて、Media Playerを使って再生します。音楽CDをCD-R/RWドライブに入れると、自動的にMedia Playerが起動し、音楽CDの再生が始まります。自動的に再生が始まらない場合は、次の手順で再生してください。

1

[スタート]ボタンから、[プログラム]→[Windows Media Player]の順に選択します。

「Windows Media Player」が起動します。

2

CD-R/RWドライブに音楽CDのディスクを入れます。

3

Media Playerの▶(再生)ボタンをクリックします。

音楽CDを再生します。

をクリックすると、Media Playerを終了します。

アドバイス
Media Playerの詳細な使い方は、Media Playerのヘルプをご覧ください。

少し勉強

CD-ROMの規格について

現在市販されているCD-ROMには次のような規格があり、本製品ではこれらすべてのCD-ROMを再生することができます。

● CD-DA、CD-Extra(エキストラ)

CD-DAは音楽用のCDです。音楽用のCDをCD-ROMドライブにセットし、Windows Meの「Media Player」を起動して音楽を聞きます。CD-Extraは音楽用CDですが、パソコン用のソフトや、画像、音声ファイルなどのデータも記録されています。

● CD-ROM XA

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在使われている多くのCD-ROMは、この規格に基づいています。

● Photo(フォト) CD

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

● Video CD

Video CDはMedia Playerで再生します。

アドバイス

CD-R/RWを使用するには

本機には、CD-R/RWへの書き込みができるAdaptec Easy CD Creatorがあらかじめインストールされています。Easy CD Creatorを使ったCD-R/RWへの書き込みの方法については、付属のEasy CD Creatorユーザーズガイドをお読みください。

5 サウンド機能を使ってみよう

本製品には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子やスピーカなどが用意されています。ここではそれらの使い方を説明します。

内蔵スピーカについて

本体にはステレオスピーカが内蔵されています。このスピーカからは次の 4 種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、Windows のアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調節したり、ミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	内蔵モノラルマイクやMIC IN端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。

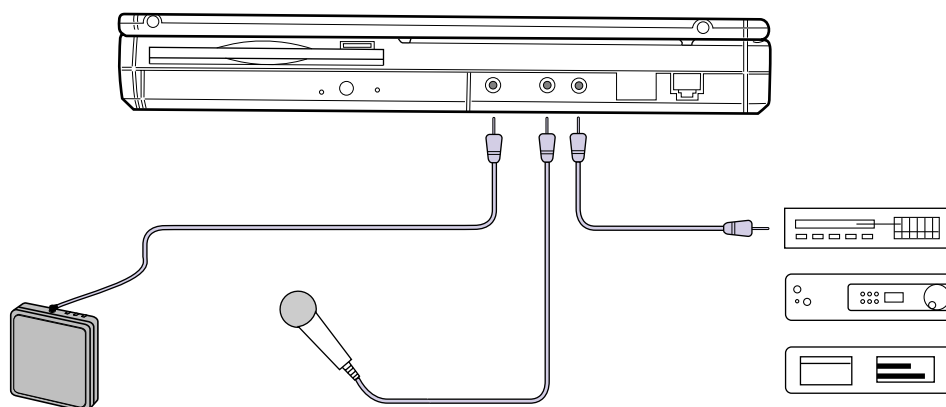
内蔵マイクについて

キーボード右上部にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。

アドバイス

内蔵マイクのボリュームを最大にして録音すると、スピーカとハウリングを起こして正しく録音されない場合があります。適切なボリュームで録音してください。

マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の右側は、マイクやヘッドホン、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードを用意してください。

光デジタル出力(SPDIF)/HeadPhone端子
光デジタル入力端子を持つオーディオ機器や、スピーカなどを接続します。アナログヘッドホンも接続できます。(☞ 60ページ)

MIC IN（マイク入力）端子
モノラルマイクを接続することにより、マイクからの音声をコンピュータに取り込むことができます。(この場合、内蔵マイクは使用できなくなります。)(☞ 60ページ)

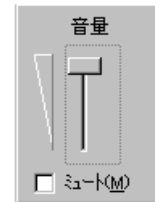
LINE IN 外部入力端子（ステレオ）
外部オーディオ機器を接続することにより、CDプレーヤーやカセットデッキ、ラジオなどからの音声をコンピュータに取り込むことができます。(☞ 61ページ)

スピーカの音量を調整する

内蔵スピーカの音量は次のように調節します。

■Windows でスピーカの音量のみ調節するとき

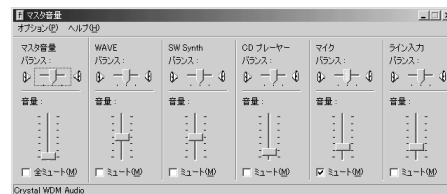
タスクバーの🔈を左クリックする

つまみをドラッグして調節する（「ミュート」をチェックすると音声が消えます）

■Windows で左右のバランスや音源ごとに調節するとき

タスクバーの🔈を右クリックする

[音量コントロールを開く]を左クリックする

音量コントロールを開く(O)
オーディオのプロパティの調整(A)

ボリュームコントロール(ミキサー)の各音源のつまみをドラッグして調節する

アドバイス

音量の調節はキーボードでも操作できます。

Fn ＋ F10 キー：内蔵スピーカからの音が大きくなります。

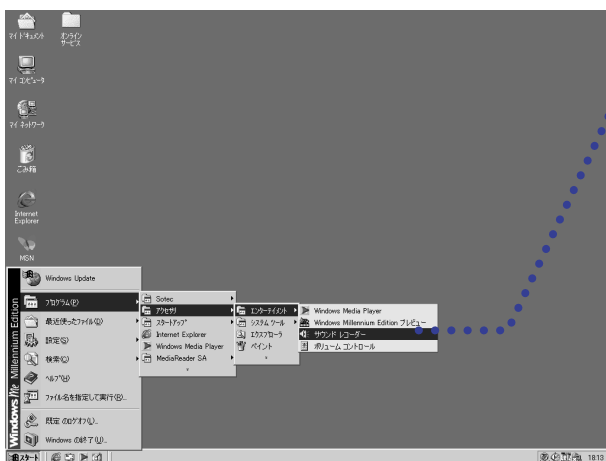
Fn ＋ F11 キー：内蔵スピーカからの音が小さくなります。

少し勉強

本機は光デジタル端子を通して音声をデジタルで出力できます。ノイズの少ないクリアなサウンドを聞くことができます。
(☞ 60 ページ)

録音をする

オーディオ機器などから音声を録音するときは、Windows Meの「サウンドレコーダー」を使用します。録音した音声は、ファイルとして、本製品のハードディスクに保存できます。

1

「スタート」メニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[エンターテイメント]→[サウンドレコーダー]の順に選択します。

「サウンドレコーダー」の画面が表示されます。

2

録音を始めるときは、[●]ボタンをクリックします。

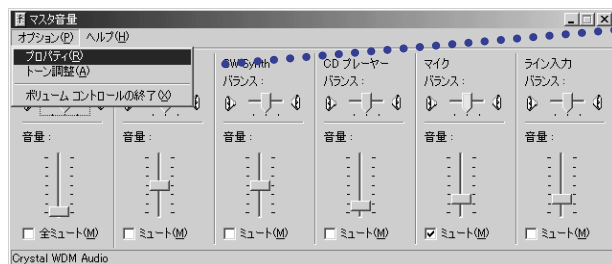
■録音の音量を調整するには

本製品に入力される音量が小さすぎたり、大きすぎたりするときは、Windows Me のボリュームコントロールで調整します。

1

タスクトレイ上にある をダブルクリックします。

「ボリュームコントロール」の画面が表示されます。

2

ボリュームコントロールの[オプション]から、[プロパティ]を選択します。

3

録音を選択します。

音量を調整するデバイスにチェックマークをつけます。

[OK]ボタンをクリックします。

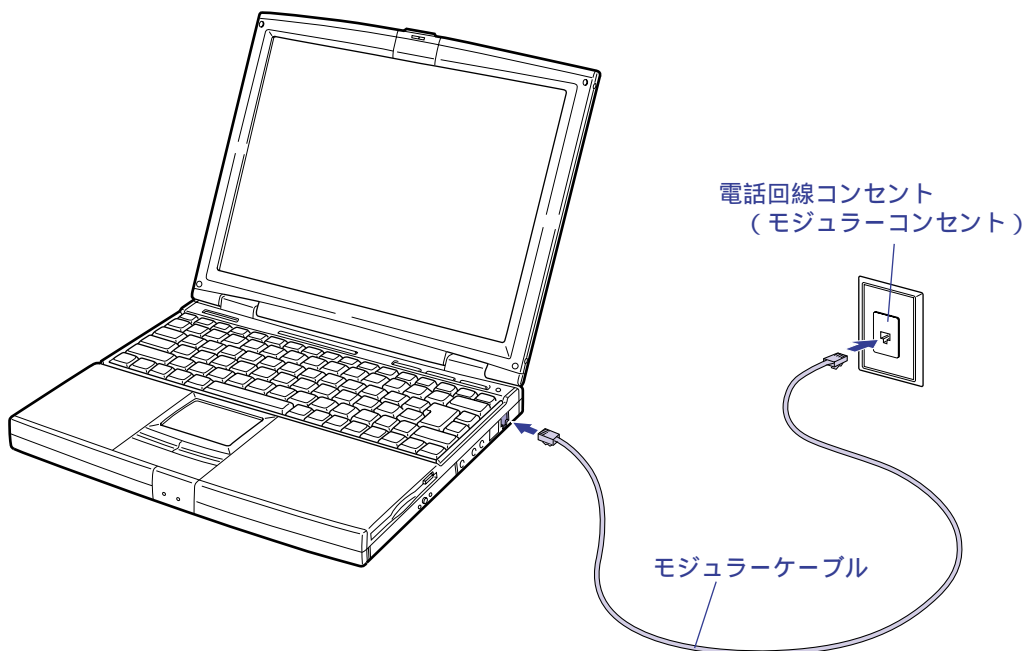
4

選択したデバイスのスライダをドラッグして、音量を調整します。

6 インターネットを楽しむために

ここでは、インターネットを楽しむために、通信回線との接続方法について説明をします。インターネットの始め方については、付属の「インターネット＆メール入門」を参照してください。

接続方法について

本機のモデムを使用すると、自宅の電話回線を利用して、そのままインターネットに接続することができます。
ここでは、アナログ電話回線と本製品との接続方法を説明します。その他の通信回線での接続方法については、それぞれの通信会社にお問い合わせください。

これで本製品とアナログ電話回線の接続は完了です。インターネットに接続するためにはこれ以外にも各種設定が必要です。このあとの設定については、「インターネット＆メール入門」を参照してください。

注意

本機に内蔵のモデムは、V.90の規格に対応しています。V.90は、アナログ電話回線でプロバイダからユーザ側への通信方向のみ(データのダウンロード時など)、最高56000bpsの通信速度を実現しようという規格です。ユーザ側からプロバイダへの通信方向は最高33600bpsになります。なお、電話回線の状態が悪い場合、またはプロバイダがV.90に対応していない場合は、56000bpsで接続できません。

7 画面の解像度を変える

ここでは本製品の解像度や色数といった、画面の設定の変更方法について説明します。

■出荷状態の設定

本機の画面は、次の色数および解像度で初期設定されています。

	初期設定	変更可能設定値
表示ディスプレイ	本体ディスプレイ表示のみ	外部ディスプレイのみ、本体ディスプレイおよび外部ディスプレイの同時表示
ディスクトップ領域	1024×768ピクセル	640×480、800×600
カラーパレット(色数)	High Color(16ビット) 6万5,536色	16色、256色
フォントサイズ	小さいフォント(16ドット)	大きいフォント(24ドット)

step 2 使ってみよう

■設定を変更する

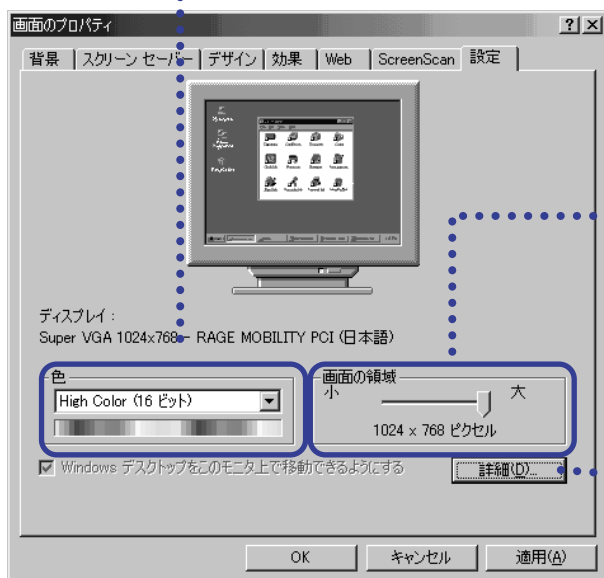
1

画面

[スタート]ボタンをクリックし、[スタート]メニューの[設定]-[コントロールパネル]を選びます。

【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。

コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[設定]を選びます。

2

ボタンをクリックし、色（表示する色数）を選びます。

を左右にスライドさせ、画面の領域（解像度）を選びます。

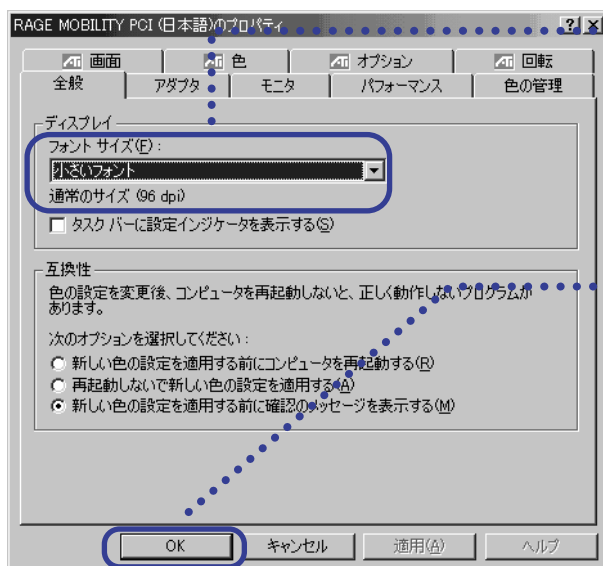
[詳細]ボタンをクリックします。

画面のプロパティ
背景 | スクリーン セーバー | デザイン | 効果 | Web | ScreenScan | 設定
ディスプレイ：
Super VGA 1024x768 - RAGE MOBILITY PCI (日本語)
色
High Color (16 ビット)
画面の領域
小 大
1024 x 768 ピクセル
Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする
詳細(D)...
OK キャンセル 適用(A)

アドバイス

表示させるディスプレイを変えるには

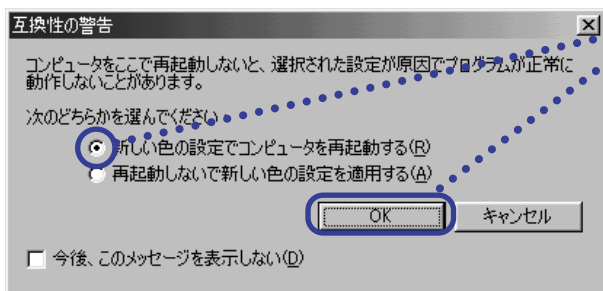
一時的に変更する場合は、Fn+F8 を押すと、本体ディスプレイ(LCD)→外部ディスプレイ→同時表示の順で切り替わります。
外部ディスプレイに表示させるときはWindows をいったん終了させ、電源をOFF にしてから外部ディスプレイを接続してください。**(☞ 76ページ)**

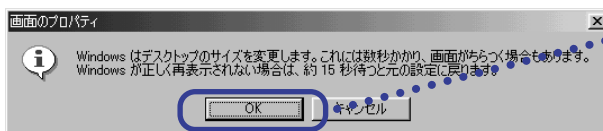
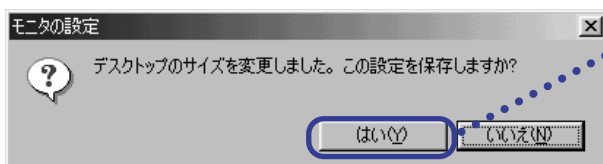
3

▼をクリックし、フォントサイズ（表示するフォントサイズ）を選びます。

［OK］ボタンをクリックします。

【画面のプロパティ】に戻り、［適用］ボタンをクリックします。

変更した内容によって次のメッセージが表示されます。

■色・フォントサイズの種類を変更した場合

再起動する必要があります。「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」にチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

■画面の領域(解像度)のみ変更した場合

再起動する必要はありません。サイズの変更を確認するダイアログボックスが表示されるので、[OK]ボタンをクリックすると数秒後に変更されます。

変更したサイズを保存するときは[はい]ボタンをクリックします。

アプリケーションソフトによっては、インストール時などに自動的に画面設定が変更される場合があります。アプリケーションソフトに適した画面設定の変更方法については、アプリケーションソフトの取扱説明書をよくお読みください。

8 サスペンド機能を利用する

初期出荷時に設定されているサスペンド機能の使用方法を説明します。

サスペンドとは

本製品には 2 種類のサスペンド機能があります。
使用状況に応じてご利用ください。

スタンバイ

ハードディスクドライブ、本体ディスプレイ、本体ディプレイのバックライトの電力消費を最小にする機能です。
スタンバイ機能は、少しの間席をはずすときなどに、バッテリの消費を抑えるのに役立ちます。

休止状態（ハイバネーション）

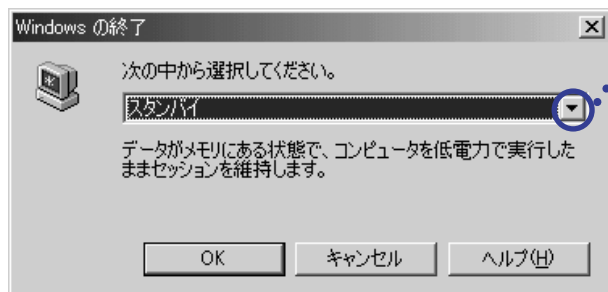
作業中のデータをハードディスクに保存して、電源を切る機能です。
次に起動するときに、作業を中断する前の状態で立ち上がります。

スタンバイの設定

・「スタート」メニューからスタンバイモードに入る(初期設定)
・電源スイッチでスタンバイモードに入る
・液晶ディスプレイを閉じてスタンバイモードに入る(初期設定)
・キーボードの Fn + F1 キーでスタンバイモードに入る(初期設定)
・自動的にスタンバイモードに入る

スタンバイモードから復帰(レジューム)するには、本機の電源スイッチを押します。

■「スタート」メニューからスタンバイモードに入る方法

1 **「スタート」メニューから[Windows の終了]をクリックします。**

2 **[スタンバイ]を選択します。**

[OK]ボタンをクリックします。

これでスタンバイモードに入ります。

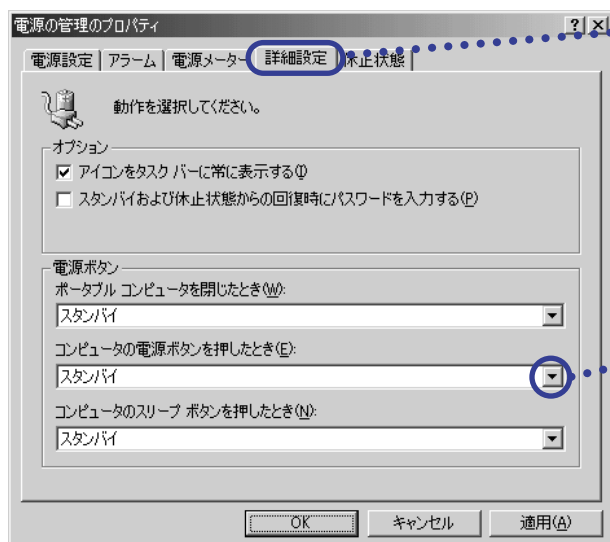
Windows の終了
次の中から選択してください。
スタンバイ
データがメモリにある状態で、コンピュータを低電力で実行したままセッションを維持します。
OK　キャンセル　ヘルプ(H)

■電源スイッチでスタンバイモードに入る方法

1

[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[電源の管理]の順にアイコンをダブルクリックします。

2

「詳細設定」タブをクリックします。

「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

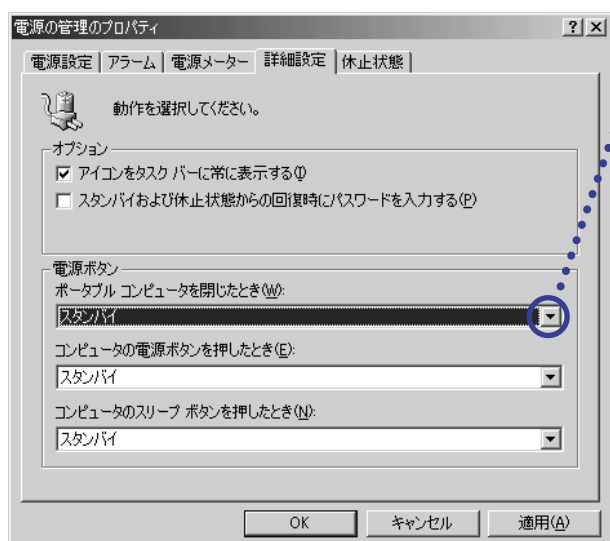
これで本機の電源スイッチを押すと、スタンバイモードに入ります。

■液晶ディスプレイを閉じてスタンバイモードに入る方法

1

「電源スイッチでスタンバイモードに入る方法」の手順 1.2 を行います。

2

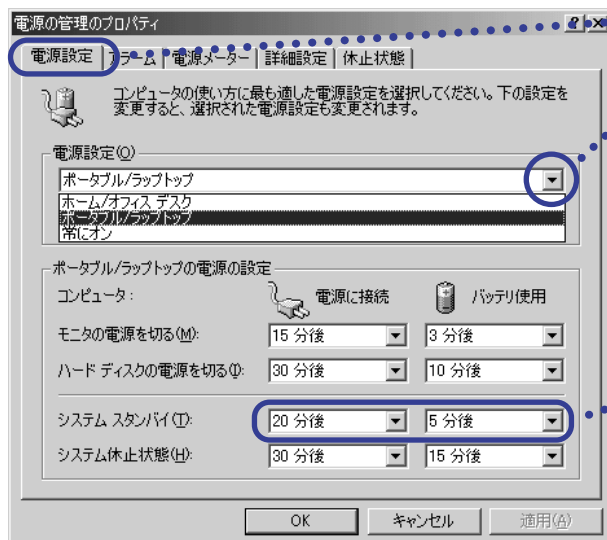
「電源ボタン」の欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。

[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これで液晶ディスプレイを閉じると、スタンバイモードに入ります。

■自動的にスタンバイモードに入る方法

1

[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[電源の管理]の順にアイコンをダブルクリックします。

2

「電源設定」のタブをクリックします。

「電源設定」欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

「ポータブル/ラップトップの電源の設定」で、「システムスタンバイ」欄にスタンバイに入るまでの時間を設定します。

[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

設定した時間、本機を操作しないでいると、自動的にスタンバイモードに入ります。
スタンバイモードからもとの状態に戻すには、本機の電源スイッチを押します。

step 2 使ってみよう

休止状態(ハイバネーション)の設定

休止状態(ハイバネーション)に入るには次の 4 つの方法があります。

・「スタート」メニューから休止状態(ハイバネーション)に入る(初期設定)
・電源スイッチで休止状態(ハイバネーション)に入る(初期設定)
・液晶ディスプレイを閉じて休止状態(ハイバネーション)に入る
・自動的に休止状態(ハイバネーション)に入る

休止状態から復帰するには、本機の電源スイッチを押します。

OS が Windows NT では、休止状態に入ることができません。

■「スタート」メニューから休止状態(ハイバネーション)に入る方法

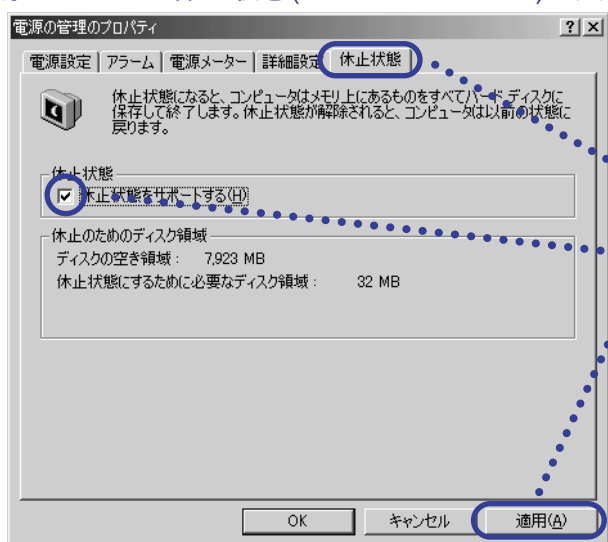
1 「スタート」メニューから[Windows の終了]をクリックします。

2 [休止状態]を選択します。

[OK]ボタンをクリックします。

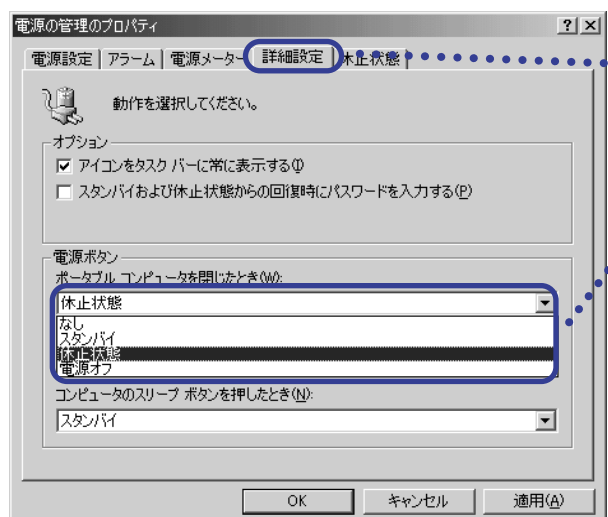
これで休止状態になります。

サスペンド機能とレジューム
サスペンドによるスリープ状態から再度電源を ON にし、作業を中断した状態まで復帰することを、レジュームといいます。

■電源スイッチで休止状態(ハイバネーション)に入る方法

1 [マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[電源の管理]の順にアイコンをダブルクリックします。

2 「休止状態」タブをクリックします。

「休止状態をサポートする」にチェックを入れて、[適用]ボタンをクリックします。

3 「詳細設定」タブをクリックします。

「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。

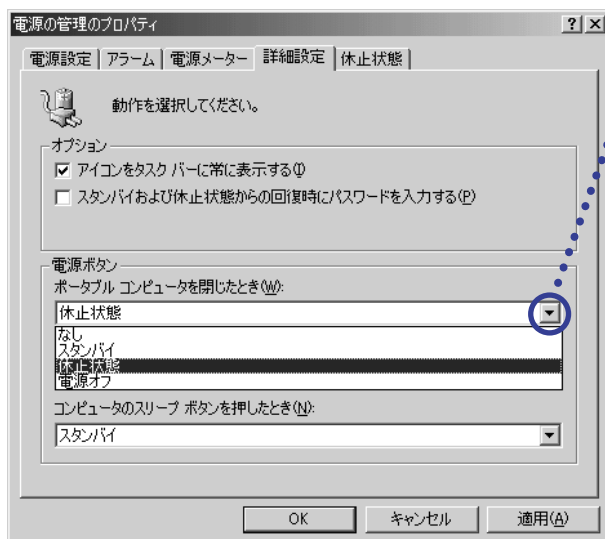
[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これで、本機の電源スイッチを押すと、休止状態に入ります。

■液晶ディスプレイを閉じて休止状態(ハイバネーション)に入る方法

1

「電源スイッチで休止状態(ハイバネーション)に入る方法」の手順 1、2 を行います。

2

「電源ボタン」の欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「休止状態」に設定します。

[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

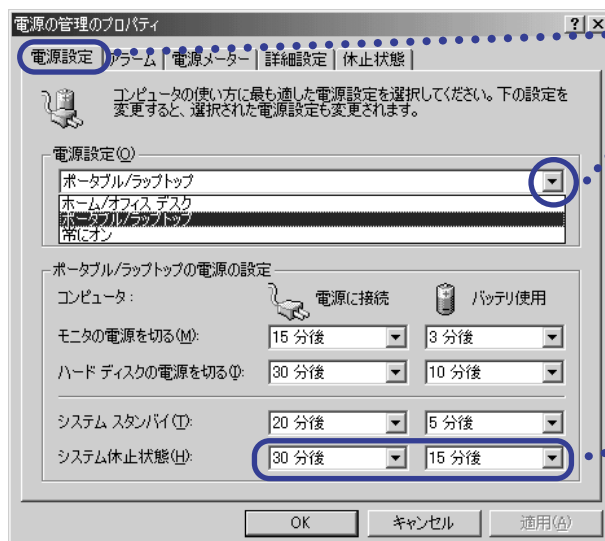
これで液晶ディスプレイを閉じると、休止状態に入ります。

step 2 使ってみよう

■自動的に休止状態(ハイバネーション)に入る方法

1

[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[電源の管理]の順にアイコンをダブルクリックします。

2

「電源設定」のタブをクリックします。

「電源設定」欄を「ポータブル/ラップトップ」に設定します。

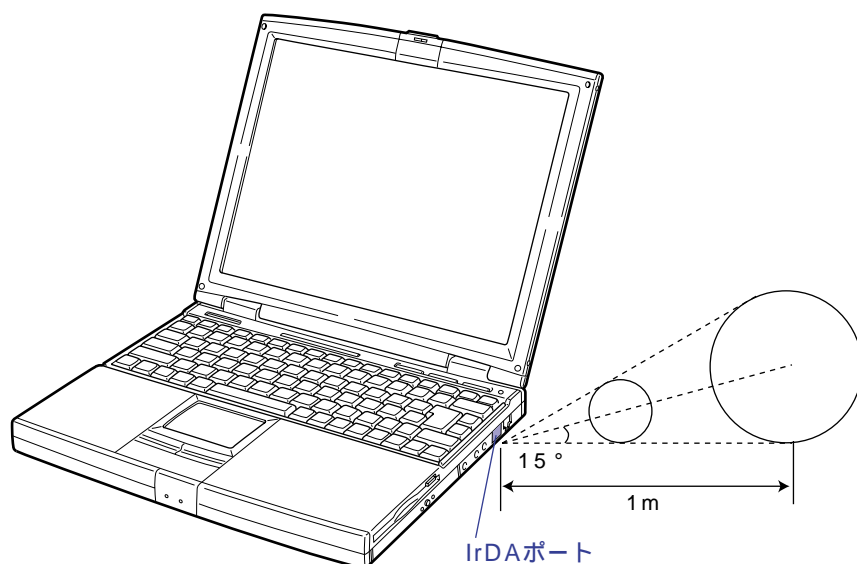
「ポータブル/ラップトップの電源の設定」で、「システム休止状態」欄の時間を設定します。

[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

設定した時間コンピュータを操作しないでいると、自動的に休止状態に入ります。
休止状態から元の状態に戻すには、電源スイッチを押し込みます。

9 IrDA ポートを使う

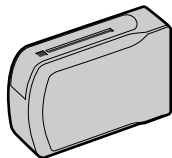
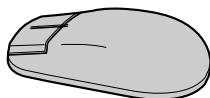
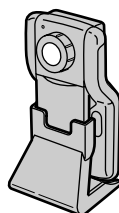
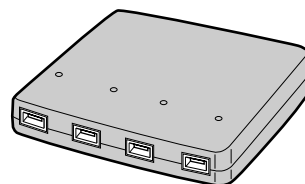
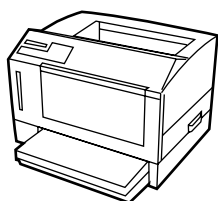
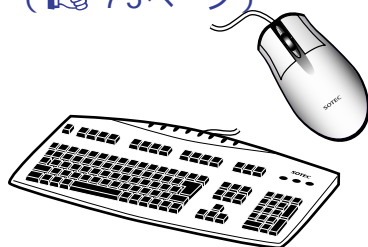
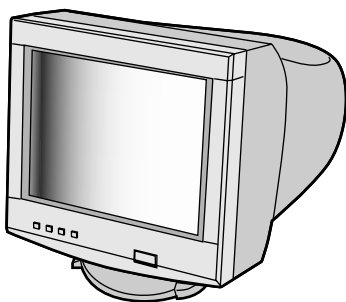
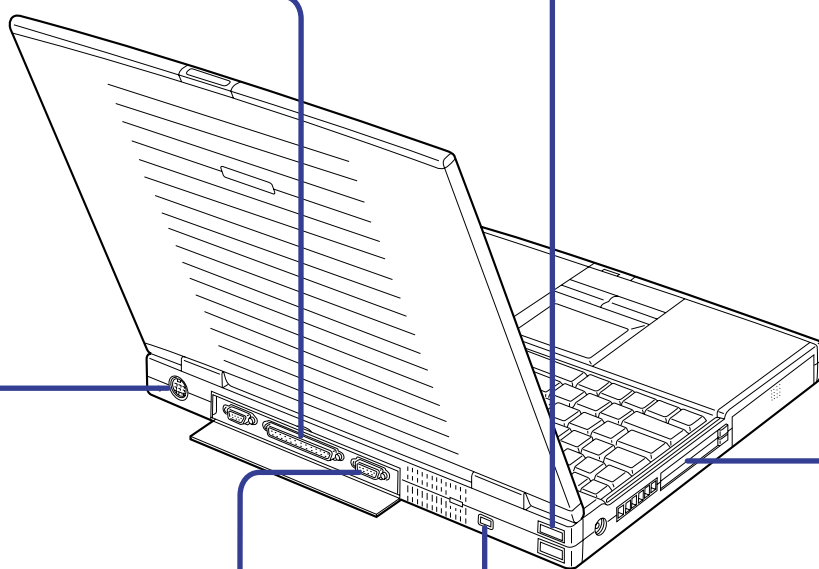
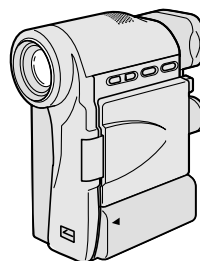
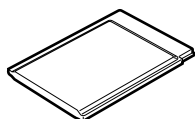
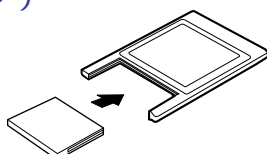
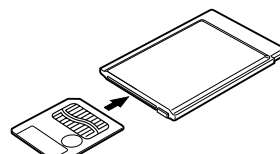
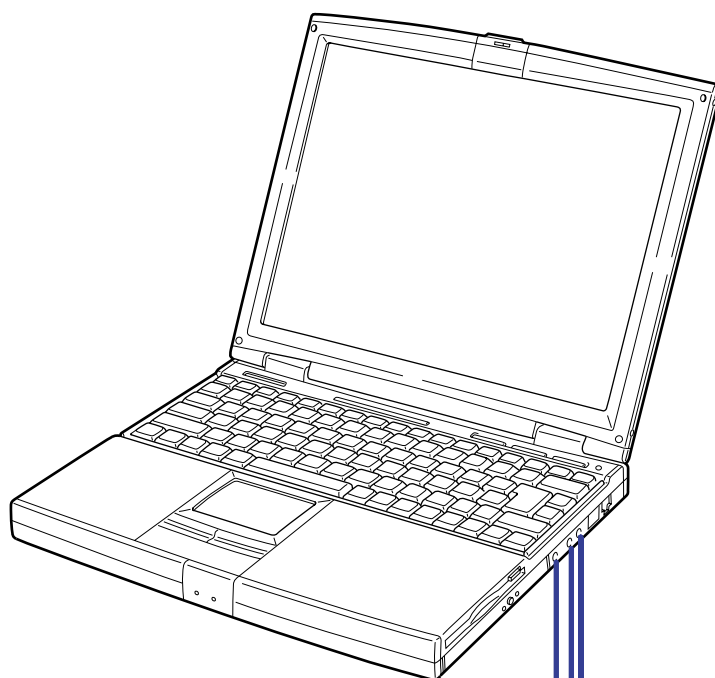
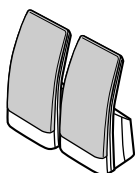
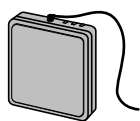
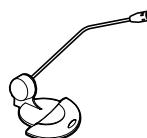
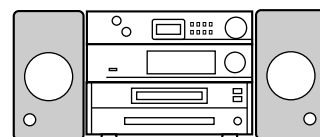
赤外線でデータを送受信するための「IrDA」規格に準拠したIrDA ポートが装備されています。IrDA ポートを装備した他の機器とは、ケーブルを接続せずにデータの送受信ができます。

本機の右側面にあるIrDA ポートと他の機器のIrDA ポートが向かい合うように配置します。

IrDA ポートを使ってデータを送受信するときは、ポート間の距離が1m 以内になるように配置してください。また、通信中にポート間をさえぎると、通信不能になります。

Step 3
周辺機器を使いこなす

プリンタやスキャナなど、WinBook と接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。
さまざまな周辺機器と接続することで、WinBook をより充実して使うことができます。ぜひ、お読みください。

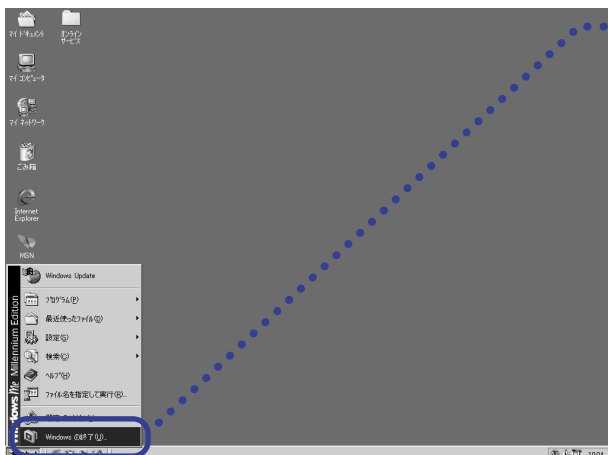
1 使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

PCカード(☞62ページ)
・フラッシュ RAMカード
・コンパクトフラッシュ (カードアダプタが必要)
・スマートメディア (カードアダプタが必要)
ヘッドフォン
スピーカ
MDなど、光デジタル入力端子を持つ機器 (☞60ページ)
外部スピーカ(アンプなし)やヘッドフォンを接続することにより、パソコンから出力される音声をステレオで聞くことができます。
マイクロフォン (☞60ページ)
オーディオ機器 (☞61ページ)

2 周辺機器を取り付ける前に

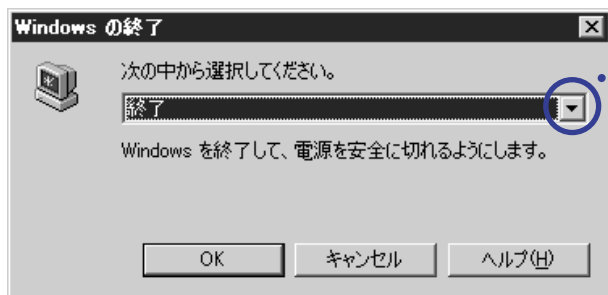
ここでは周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業をしなければならないことを説明します。

取り付けは電源を OFF にしてから

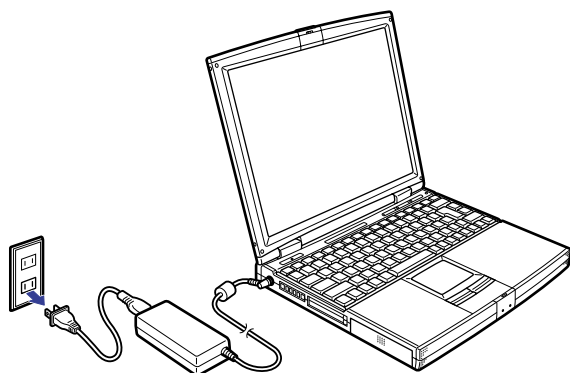
ケーブル類や、周辺機器を取り付けるときは、本機の電源を OFF にし、電源ケーブルを AC コンセントから取り外します。電源ケーブルが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機を壊したり、感電してしまう恐れがあります。

1

[スタート]ボタンから［Windows の終了］を選択します。

【Windows の終了】ウィンドウが表示されます。

2

▼ボタンをクリックし、「終了」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

電源が OFF になります。

3

電源ケーブルを取り外します。

PC カード、USB 対応の機器は、パソコンの電源を ON にしたまま、取り付けや取り外しができます。

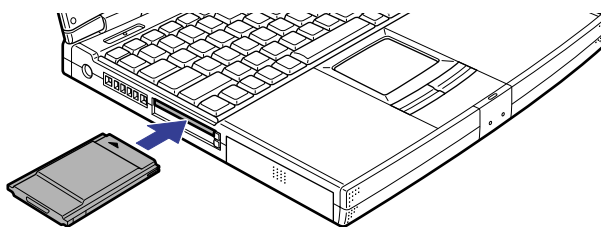
周辺機器を取り付けます。

本体内部の機器を取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

体の静電気を取り除いて

基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。これらの機器を取り付ける前には、ドアのノブなど、身近な金属に触れて、帯電されている静電気を取り除いてください。

取扱説明書をよく読んで

■ユーザーズガイドをよく読んで

オプションカードなどの取り外しや、取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。周辺機器を取り付ける前にはこのユーザーズガイドをよくお読みください。

■周辺機器に付属の取扱説明書をよく読んで

周辺機器に添付の取扱説明書には、取り付け方法や、取り付けた後に必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。
周辺機器を取り付ける前には、必ず周辺機器の取扱説明書をよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル(デバイスドライバなど)を理解し、これから始める拡張の作業に備えましょう。

プラグアンドプレイ(Plug & Play)について

Windows Me には、本機に周辺機器を取り付けるだけで、周辺機器をコントロールするための専用ソフト(デバイスドライバ)の組み込みを自動的に行う、プラグアンドプレイという機能があります。

■プラグアンドプレイで、取り付けた周辺機器を自動検出する

プラグアンドプレイに対応している周辺機器の場合、周辺機器を取り付けて本機の電源を ON にすると、【新しいハードウェアの追加ウィザード】ウィンドウが表示されます。後は、表示されるメッセージに従って操作するだけで設定が完了します。

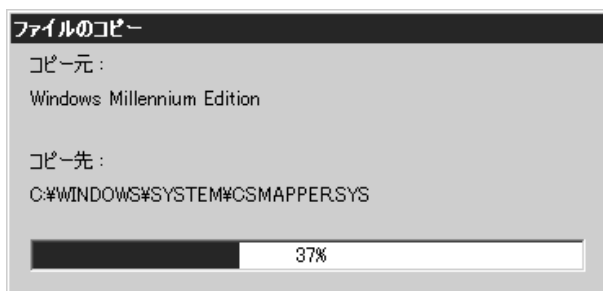
アドバイス

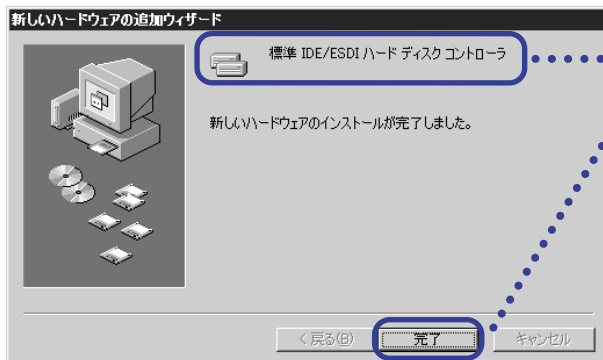
プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、場合によっては、設定が自動で行われない場合があります。(☞103 ページ)

1

新しいハードウェアの追加ウィザード
次の新しいハードウェアが見つかりました：
標準 IDE/ESDI ハード ディスク コントローラ
ハードウェアをサポートしているソフトウェアを自動的に検索して、インストールできます。ハードウェアに付属のインストール メディアがある場合は、そのメディアを挿入して、[次へ] をクリックしてください。
オプションを選択してください。
適切なドライバを自動的に検索する（推奨）(A)
ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）(S)
< 戻る(B) 次へ > キャンセル

周辺機器を取り付けた後に、電源を ON にすると、【新しいハードウェアの追加ウィザード】ウィンドウが表示されます。

2

自動的にハードウェアに必要なデバイスドライバがコピーされます。

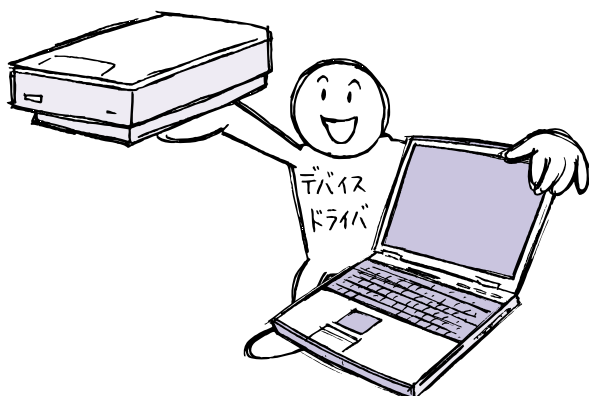
3

ドライバが正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、設定は終了です。[完了]ボタンをクリックします。

これで、設定は無事終了しました。

少し勉強

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みやリソースの設定は自分で行う必要があります。また、周辺機器側のディップスイッチなどを変更する必要があります。周辺機器の取扱説明書などをよく読み、設定を行ってください。

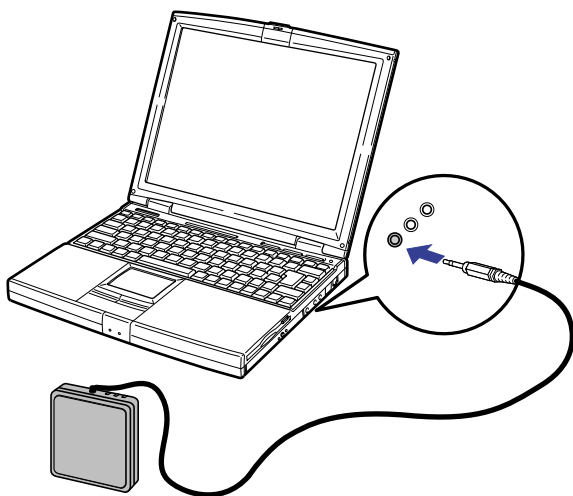
■デバイスドライバとは

周辺機器を使うときは、デバイスドライバという専用ソフトウェアが必要になる場合があります。デバイスドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトウェアです。

デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows Meに付属されているものと、周辺機器に付属のもの(フロッピーディスクやCD-ROMで提供されています)があります。また、周辺機器メーカのホームページから最新のものを入手することもできます。最新のデバイスドライバを入手することで、周辺機器の機能を最大限に引き出すことができます。

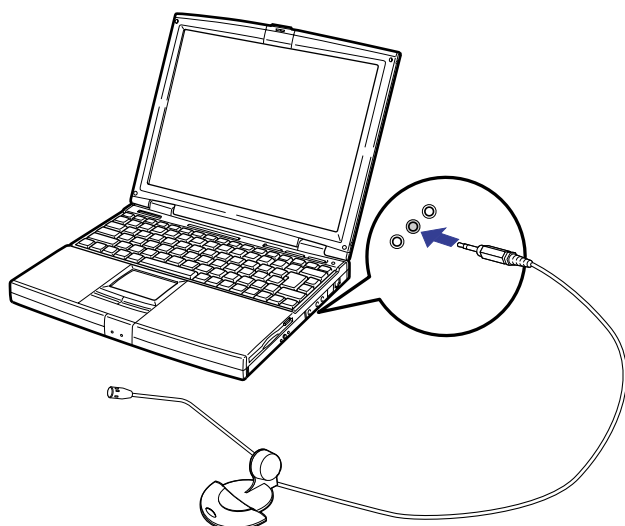
3 AV 機器と接続する

ここでは本製品と接続できる AV 機器の紹介と接続方法を説明します。

光デジタル対応の機器と接続する

光デジタル入力端子を装備しているオーディオ機器やヘッドホンと接続することができます。光デジタルケーブルを利用した、ノイズの少ないクリアなサウンドが楽しめます。

光デジタルケーブルを使用して、本機の光デジタル出力端子とオーディオ側の光デジタル入力端子を接続します。

光デジタルケーブルはお近くの電器店でお求めください。

マイクロフォンと接続する

市販のマイクロフォンを接続して、マイクロフォンから自分の声を録音できます。

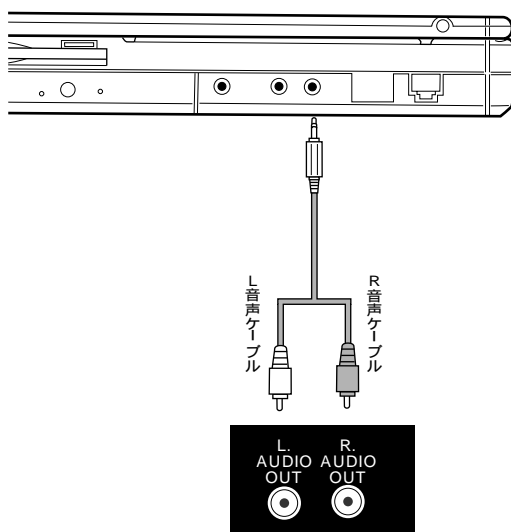
マイクロフォンは、側面の MIC IN 端子( ) に接続します。

マイクロフォンはモノラルタイプのミニプラグ付マイクロフォンを、電器店などで購入してください。

ハウリングについて

スピーカにマイクロフォンを近づけると、スピーカとマイクロフォンが共振し、キーンという音が出ることがあります。これをハウリングといいます。ハウリングは、マイクロフォンをスピーカーから遠ざけるか、入力レベルを小さくする(ボリュームコントロールで調整)ことで防ぐことができます。

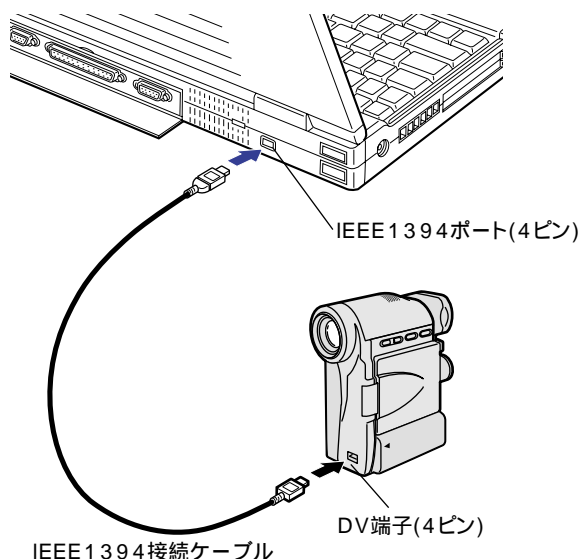
オーディオ機器と接続する

本機とオーディオ機器を接続して、オーディオ機器の音声を本機に取りこむことができます。

オーディオ機器などの背面

LINE IN 端子とオーディオ機器の音声出力端子を市販のステレオオーディオケーブルを使用して接続します。

デジタルビデオと接続する

本機の IEEE1394 ポートと、DV 端子を持つデジタルビデオを接続して映像および音声を取り込んだり、映像および音声をデジタルビデオに出力できます。

■ IEEE1394 ポートを使用してデジタルビデオと接続する

本機背面の IEEE1394 ポート(4 ピン)と 4 ピンの DV 端子を持つデジタルビデオを、IEEE1394 接続ケーブルで接続します。

IEEE1394 は、DV 端子とも呼ばれています。

4 PCカードを使う

PCカードスロットには、市販のさまざまなPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

PCカードとは

PCMCIA（Personal Computer Memory Card International Associationの略）は、パソコンに使用するICカードを、パソコンのメーカーが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。
PCカードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェース、LANなど様々な種類があります。

アドバイス

PCカードを使うには、コンピュータに、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

■カード規格について

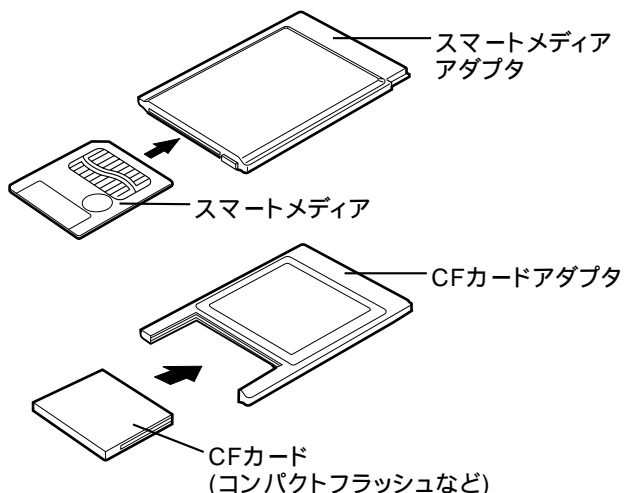
PCMCIA（Personal Computer Memory Card International Associationの略）は、ノートタイプのコンピュータに使用するICカードを、コンピュータのメーカーが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。
PCカードスロットに様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があります。

■ CardBus規格

CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことで、高速なデータ転送が可能です。本製品のPCカードスロットはCardBusをサポートしています。

アドバイス

PCカードを使うには、コンピュータに、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

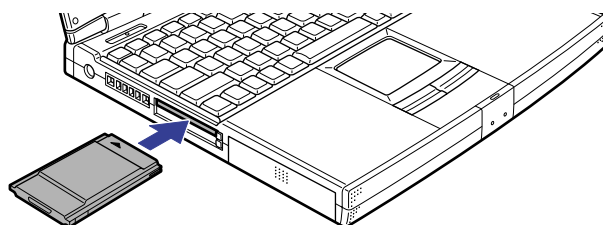
■カードサイズについて

PCカードには、現在、TYPE Ⅰ(厚さ3.3mm)、TYPE Ⅱ(厚さ5.0mm)、TYPE Ⅲ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPE Ⅱのカードを2枚、またはTYPE Ⅲのカードを1枚装着することができます。
スマートメディアやCFカードを装着する場合は、別売のアダプタを使用してください。

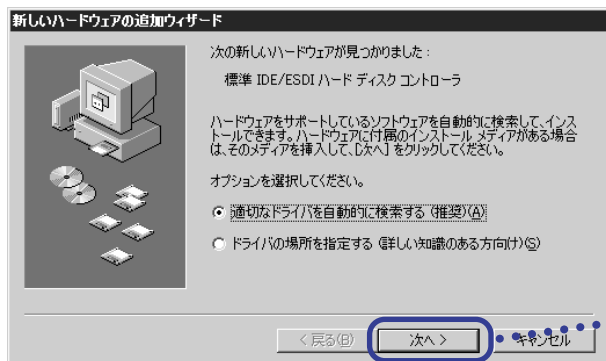
PC カードの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体として使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

■ PC カードを差し込む

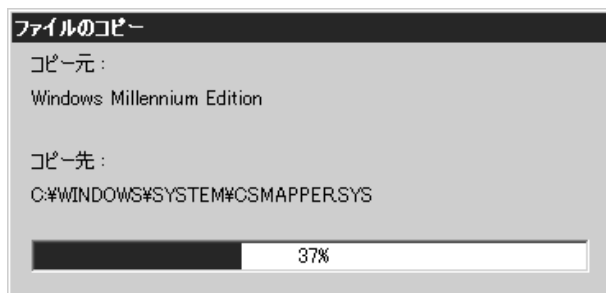
本機の電源を ON にした状態で、PC カードを差し込むと、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、PC カードを使い始めることができます。

1

本機の PC カードスロットに、PC カードを差し込みます。
ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュを PC カードと呼びます。

PC カードを差し込むと、PC カードイジェクトボタンが出てきます。

PC カードは差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。差し込む方向については、PC カードに付属の取扱説明書をお読みください。

2

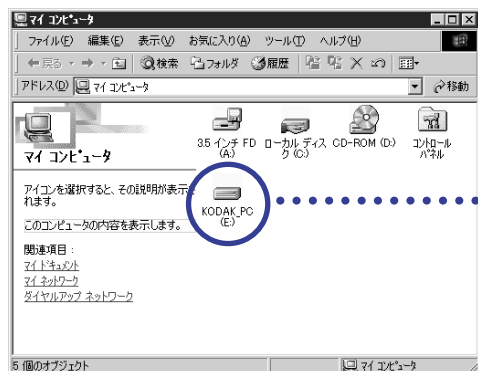
しばらくすると、【新しいハードウェアの追加ウィザード】ウィンドウが表示されるので、[次へ] ボタンをクリックします。

3

自動的にハードウェアに必要なデバイスドライバがコピーされます。

4

ハードウェアのインストールが完了しました。[完了] ボタンをクリックします。

■正しく認識できたか確認する

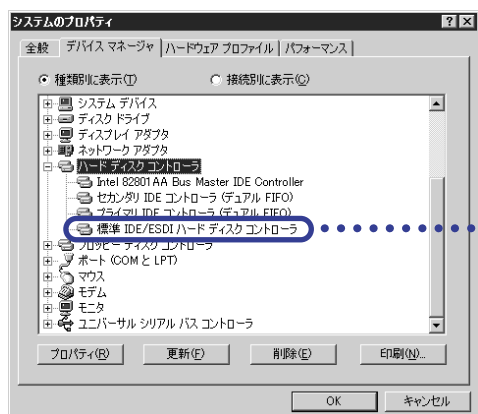
差し込んだPCカードが、正しく認識されているかどうかを確認します。

●マイコンピュータで確認する

例として差し込んだPCカードは、ファイルを保存するためのハードディスクのような機器なので、マイコンピュータの中に新しいハードディスクのアイコンが追加されていることで確認できます。

新しく接続された機器がアイコンとして表示されているのを確認します。

●デバイスマネージャで確認する

コンパクトフラッシュは、「マイコンピュータ」に追加されたアイコンで確認できますが、差し込んだPCカードの種類によって、確認の方法は異なります。
一般的に、[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、【デバイスマネージャ】を表示させて、差し込んだPCカードが登録されていれば、正しく認識されています。詳しくは、PCカードに添付の取扱説明書をお読みください。

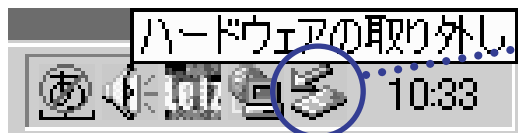
差し込んだPCカードが表示されます。

PCカードによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。PCカードに添付の取扱説明書をお読みください。

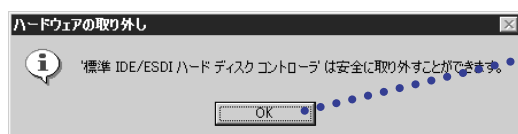
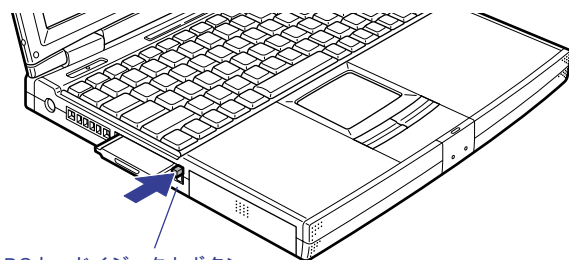
■ファイルのコピーについて

ハードディスクとして認識されたコンパクトフラッシュやスマートメディアのファイルは、ドラッグアンドドロップすることで、他のディスクにコピーできます。

PC カードの取り出し

PC カードへのアクセス中に、パソコンから PC カードを抜いたりすると、スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されているデータが破壊される場合がありますので、取り外しは必ず次の手順で行ってください。

1 **デスクトップ右下（タスクトレイ）の のアイコンをクリックします。**

2 **［標準 IDE/ESDI ハードディスクコントローラの中止］を選択します。**
表示される名称は、差し込んでいる PC カードによって異なります。

3 **次のダイアログが出たら［OK］ボタンをクリックします。**

4 **PC カードイジェクトボタンを押し込むと、PC カードが PC カードスロットから少し出てきます。**

PC カードをゆっくりと引き抜きます。

5 USB対応の周辺機器を使う

USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。ここでは、USB機器を本機で使用するための準備作業について説明します。

USB(ユーエスビー)とは

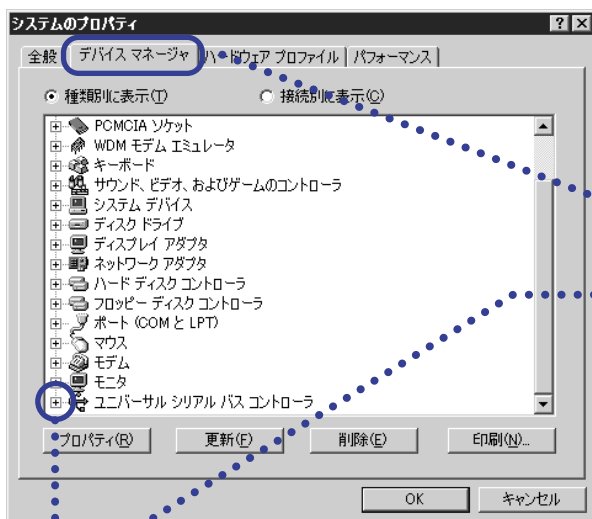
USBとはUniversal Serial Busの略で、USBに対応する機器を、最大127台まで接続できるインターフェースです。本機には、USBポートが2つ用意されていますが、市販のUSBハブを複数使用することで、最大127台(USBハブを含む)のUSB機器を接続できます。

USB機器の特長は、なんといっても本機の電源をONにしたまま、取り付け、取り外しができることでしょう。ふだんは取り外しておいて、必要なときだけ接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができます。

USB機器を接続する手順

ここでは、USB対応のスキャナを例に、本機に接続して使用するまでの手順を説明します。

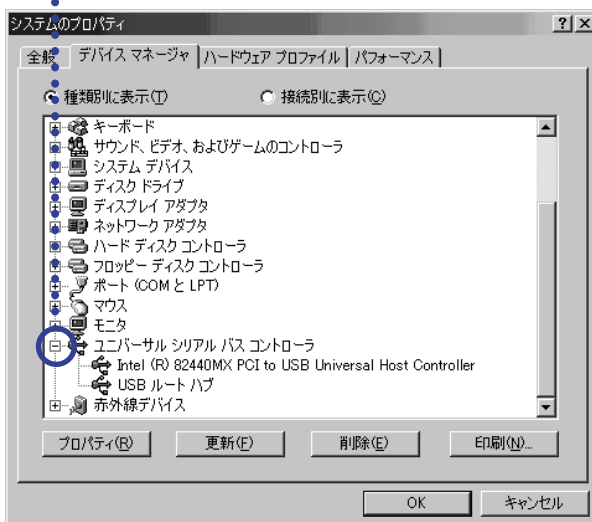
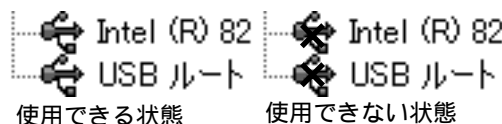
■ USBコントローラを確認する

Windows Meを起動して、USBポートそのものをコントロールするためのデバイスドライバが有効になっているかを確認します。

[スタート]ボタンから[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。

[システム]アイコンをダブルクリックします。

[デバイスマネージャ]のタブをクリックします。

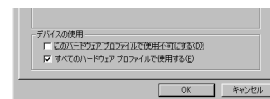
「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」の⊞の部分をクリックし、⊟に変更させます。

のマークに×印が入っていないか確認します。
×印が入っていなければ有効です。

使用できる状態　使用できない状態

USBポートが使用できない状態の場合は

USBに×マークが入っている場合は、次の手順でUSBを有効にします。

① ×印がついているUSBポートを選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

②「このデバイスプロファイルを使用不可にする」のチェックマーク( )をクリックし、チェックを取ります。

③ [OK]ボタンをクリックしていき、【システムのプロパティ】ウィンドウを閉じます。

これで、USBポートが使用できる状態になります。

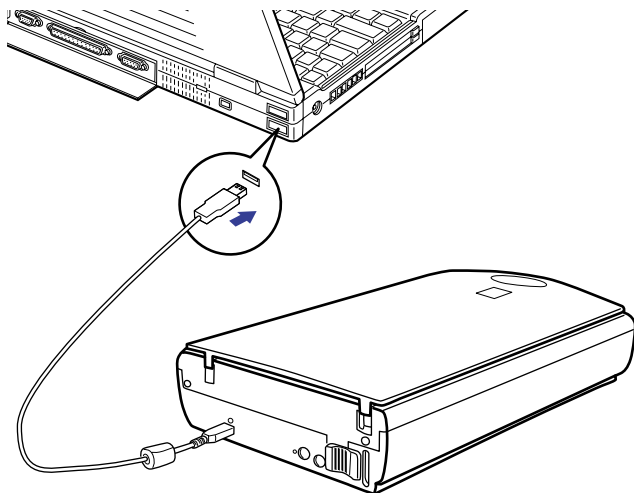
step 3 周辺機器を使いこなす

■USB機器を接続する

本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、USB機器をすぐに使い始めることができます。
ここでは、USB対応のスキャナを接続することを例に、一般的な接続手順を紹介します。

アドバイス

コネクタを差し込む前に、デバイスドライバをインストールするUSB機器がたまにあります。USB機器に付属の取扱説明書をよく読んで、USB機器を接続してください。

1

本機のUSBポートに、USB機器のコネクタを差し込みます。

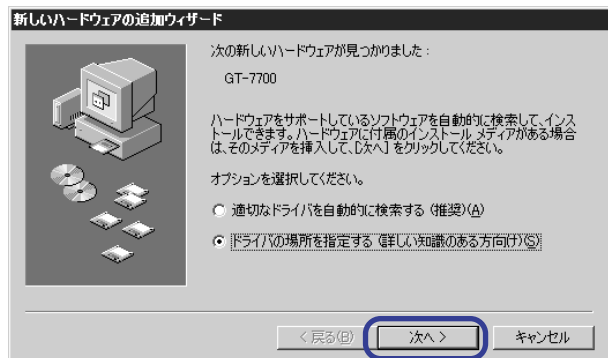
本機には、前面と背面に合計2つのUSBポートが用意されています。どちらのUSBポートを使用しても構いません。
コネクタには差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。

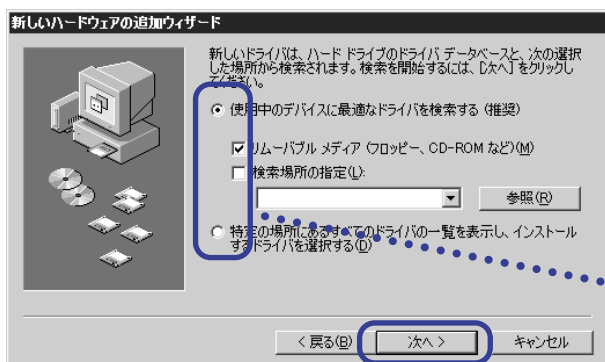
少し勉強

USBポートが足りないときは

USBポートが2つでは足りないときは、市販のUSBハブを接続することで、USBポートの数を増やすことができます。
☞「複数のUSB機器を接続する」71ページ

USB機器を接続後、しばらく待つと、自動的に画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの追加ウィザード】ウィンドウが表示されます。表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、再度差し込んでみてください。

2

表示されるメッセージに従って操作します。

3

デバイスドライバがフロッピーディスクで提供されている場合はフロッピーディスクドライブ、CD-ROM の場合は CD-R/RW ドライブに入れます。

デバイスドライバを入れたドライブを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

4

デバイスのインストールが終了されたことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。[完了]ボタンをクリックします。

USB 機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、USB 機器に添付の取扱説明書をお読みください。

USB 機器は、一度接続して設定が終了すれば、次回からは USB ポートにコネクタを差し込むだけで、すぐに機器が使用できるようになります。このとき【新しいハードウェアの追加ウィザード】ウィンドウは表示されません。

アドバイス

USB ポートごとに USB 機器が管理されるため、前回とは異なる USB ポートに USB 機器を接続すると【新しいハードウェアの追加ウィザード】が表示されますが、メッセージに従って操作してください。

■正しく接続できたか確認する

接続したUSB機器が、正しく認識されているかどうかを確認します。

●スキャナとカメラで確認する

例として接続したイメージスキャナは、[スキャナとカメラ]という画面で接続の確認ができます。[スタート]→[コントロールパネル]→[スキャナとカメラ]の順に選択してクリックすると、左のような画面が表示されます。画面の中に接続したスキャナのアイコンが表示されていることで確認をすることができます。

新しく接続された機器がアイコンとして表示されているのを確認します。

●デバイスマネージャで確認する

イメージスキャナは[スキャナとカメラ]の画面の中の追加されたアイコンで確認することができますが、接続したUSB機器の機種によって、確認の方法は異なります。

一般的に、[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、【デバイスマネージャ】を表示させて、接続したUSB対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。詳しくは、USB機器に添付の取扱説明書をお読みください。

接続したUSB機器が表示されます。

USB機器によっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。USB機器に添付の取扱説明書をお読みください。

複数の USB 機器を接続する

市販の USB ハブを使えば、1 つの USB コネクタを 4 つの USB コネクタに分岐して増やすことができます。このUSB ハブを何台も使えば、USB ハブも含めて最大 127 台(パソコン 1 台あたり)までの機器を接続できます。
ここでは、USB ハブを使用し、複数の USB 機器を接続する方法について説明します。

■バスパワーとセルフパワーについて

USB 機器は、機器自身が動作するために必要な電流の大きさによって、次のタイプに分かれます。USBハブを使う場合は、お持ちの USB 機器がどのタイプかを確認することが必要です。

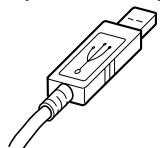
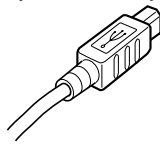
●バスパワー型

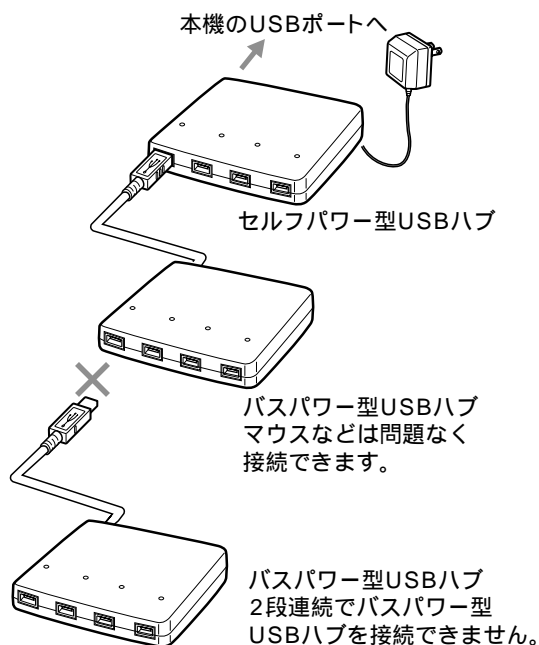
機器自身では電源を持たず、動作に必要な電流をUSB コネクタから消費して動作します。消費電流は 100mA 以下です。

●セルフパワー型

USB 機器自体の消費電流が多く、USB コネクタからの電流では動作できないため、機器に AC アダプタの接続が必要です。

■アップストリームとダウンストリームのコネクタについて

アップストリーム
ポート用コネクタ
(Aコネクタ)

ダウンストリーム
ポート用コネクタ
(Bコネクタ)

通常 USB ハブには、本機(上流)の USB コネクタから電流を受けるために接続するポート(アップストリームポートという)と、数珠つなぎに USB 機器をつなげるためのポート(ダウンストリームポートという)があります。それぞれのポートに接続するための、USB ケーブルのコネクタ形状は、次のイラストのように形状が異なります。

■ USB ハブを使った接続例

セルフパワー型の次に、バスパワー型の機器というように交互に接続できます。
バスパワー型の機器を 2 段連続で接続すると、接続する USB 機器によっては、使用できないものがありますので、注意してください。

USB ハブの詳しい使用方法は、USB ハブの取扱説明書をお読みください。

6 メモリの増設

複数のアプリケーションを使っているときなど、処理速度が遅いと感じるようになってくれば、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設方法について説明します。

メモリについて

メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションの動作も快適になります。

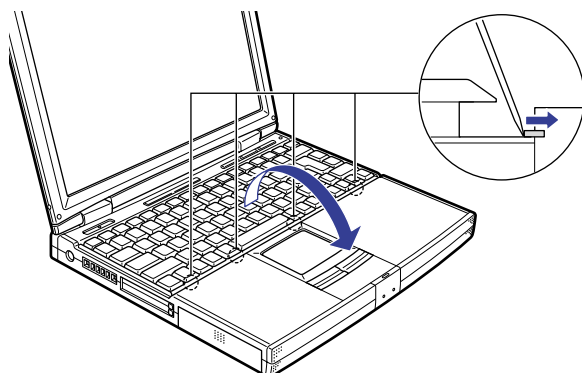
メモリが少ないと・・・

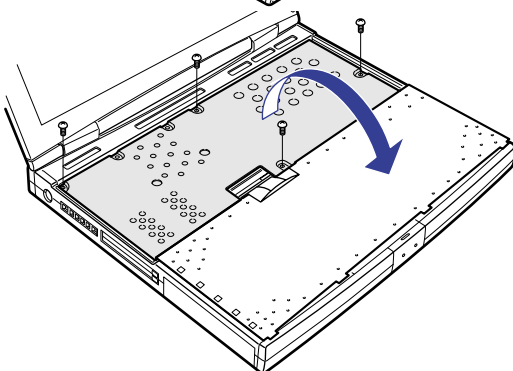
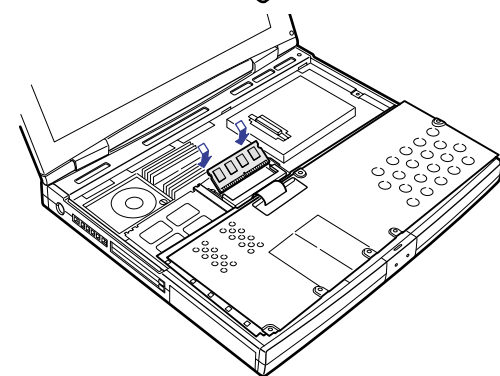
■本機で使用できるメモリ

本製品にはあらかじめ 64MB の RAM モジュールが 1 枚取り付けられています。
128MB のメモリ 1 枚を取り付けると、最大 192MB のメモリが使用できます。

**専用拡張 RAM モジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。
他社製の RAM モジュールを使用した場合、本製品の動作の保証はできません。**

メモリの取り付けと取り外し

注意

装着の前には、必ず本製品の電源を OFF にして、内蔵バッテリを外してください。

1 **キーボード手前の溝にあるツメを押し込み、キーボードを開きます。**

2 **4 つのネジを取り外し、カバーを取り外します。**

3 **拡張 RAM モジュールをゆっくりと装着します。向きを間違えないようにしてください。**

4 **電源を ON にすると、RAM 容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。**

5 **F2 を同時に押して、システムコンフィグレーションを表示させます。**

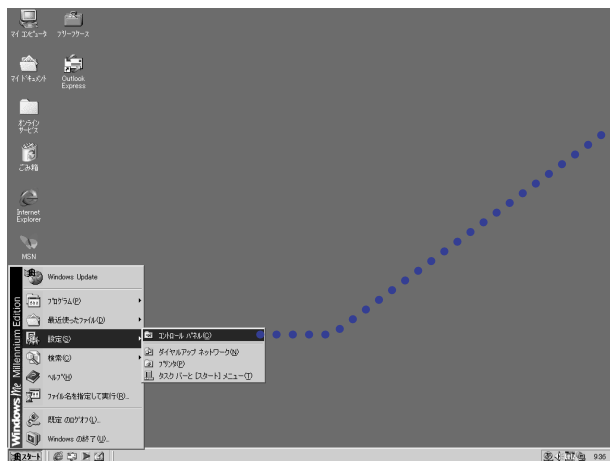
6 **システムが装着された拡張 RAM モジュールの容量を読み込み、自動的に設定が行なわれます。**

7 **システムコンフィグレーションを終了させます。【Exit】-【Exit Saving Changes】を選びます。**

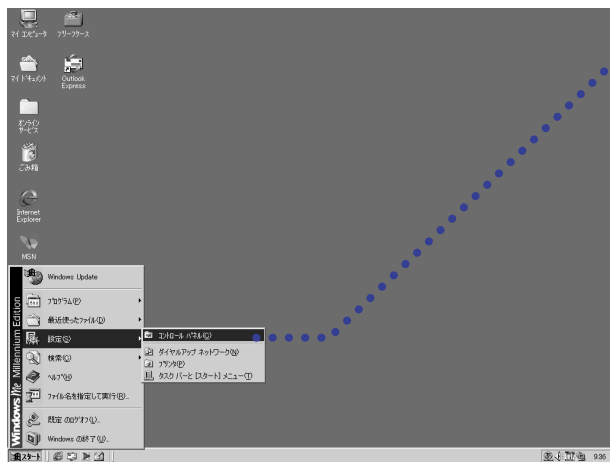
Save and Exit の詳しい操作方法については、「Step5 システムの設定を変える(BIOS)」(☞ 83 ページ)をお読みください。

増やしたメモリを確認する

電源を ON にして、メモリが増えているか確認しましょう。

1

電源を ON にします。

[スタート]ボタンから[設定]→[コントロールパネル]の順に選択します。

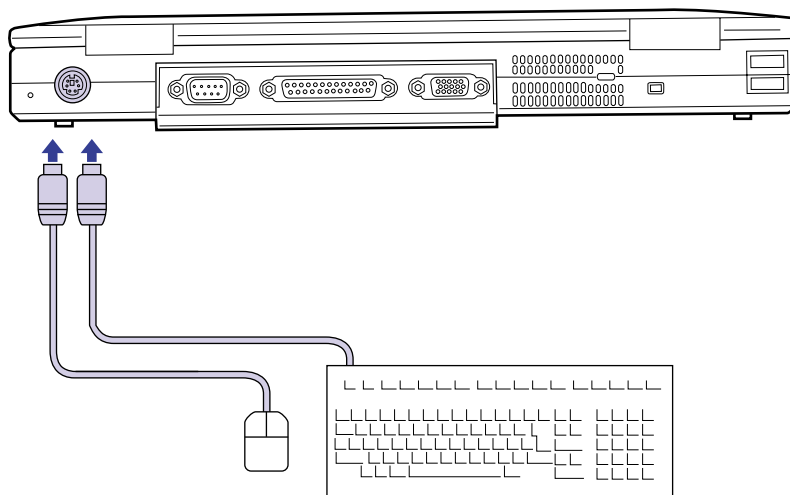
2

コントロールパネルの中の[システム]アイコンをダブルクリックします。

3

ここに表示されている数字を確認します。

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリを取り付けたかを確認してください。

7 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボードまたはマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2 用のキーボードまたはマウスを接続することができます。

本体背面にある外部キーボード/マウスコネクタに、外部キーボード、マウスのケーブルを接続します。
接続されたキーボードとマウスは、自動的に認識されます。

I/O アドレス

CPU がデータをやり取りするために使用するチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows Me ではプラグ・アンド・プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

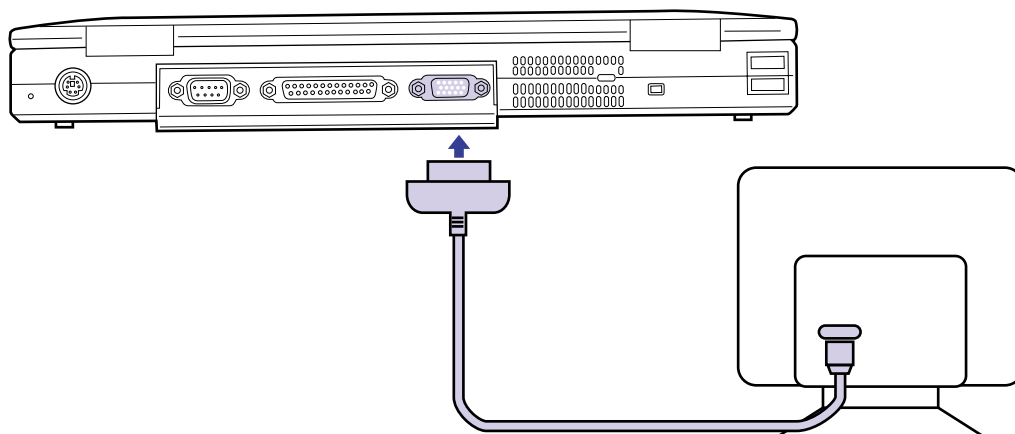
IRQ(割り込みチャネル)

周辺機器が CPU に対して割り込みを要求するためのチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows Me ではプラグ・アンド・プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

8 外部ディスプレイを接続する

本製品には、外部ディスプレイを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、SVGA/XGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、最大1600×1200ドットの解像度で表示できるようになります。

注意

必ず本製品の電源をOFFにしてから接続してください。また、サスペンドの状態では接続できません。

コンピュータの背面にある外部ディスプレイポートに、外部ディスプレイのケーブルを接続します。

アドバイス

- **コンピュータ本体の電源を入れてから、外部ディスプレイの電源を入れてください。**
- **外部ディスプレイを接続した場合、Windowsのコントロールパネルの[画面]で、「ディスプレイの種類」を設定する必要があります。設定方法は次ページをお読みください。**

注意

本体ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示する場合、接続する外部モニタは、設定したデスクトップ領域（解像度）をサポートするものを使用してください。

アドバイス

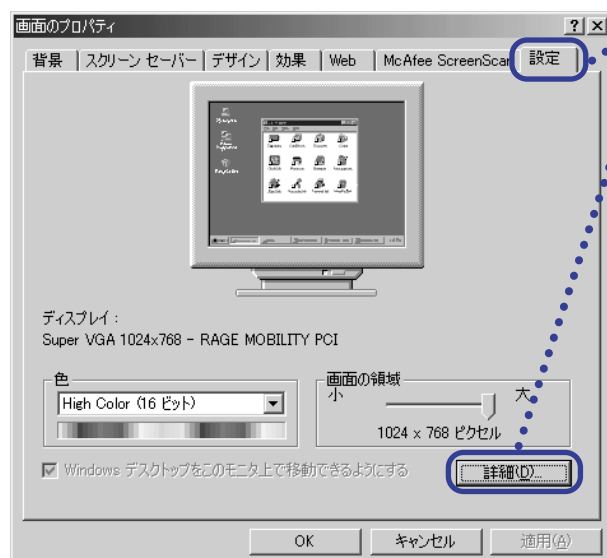
一時的に表示ディスプレイを切り替える

Fn+F8キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。

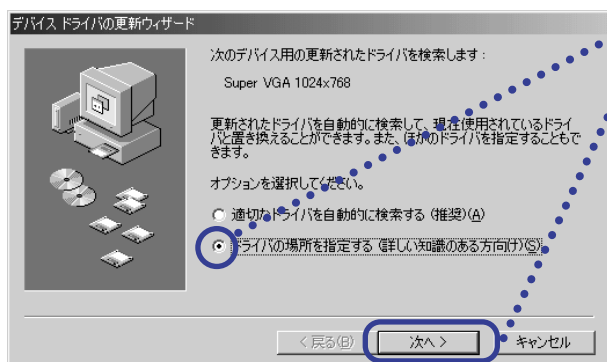
ディスプレイの種類を設定するには

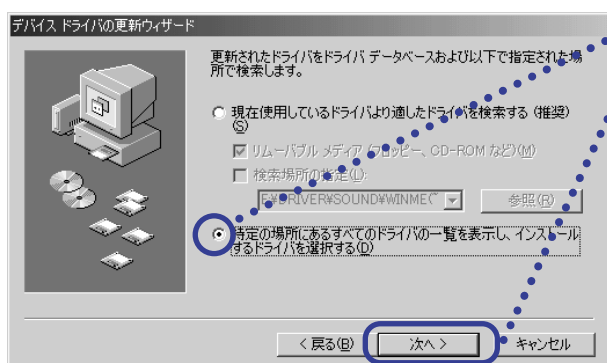
1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの[設定] - [コントロールパネル]を選びます。

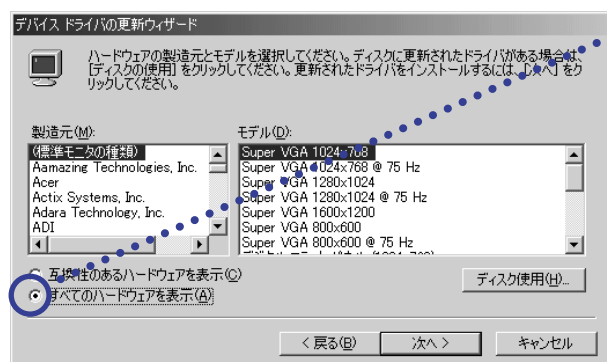
2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックします。

3

[設定]タブをクリックし、[詳細]をクリックします。

4 [モニタ]タブをクリックし、「変更」タブをクリックします。

5

「ドライバの場所を指定する」にチェックを入れて、[次へ]ボタンをクリックします。

6

「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」にチェックを入れて、[次へ]ボタンをクリックします。

7

「すべてのハードウェアを表示」にチェックを入れると、次の画面が表示されます。

使用するディスプレイと一致するものを選択して、[OK]をクリックします。

色数や画面の領域の設定は、45 ページをご覧ください。

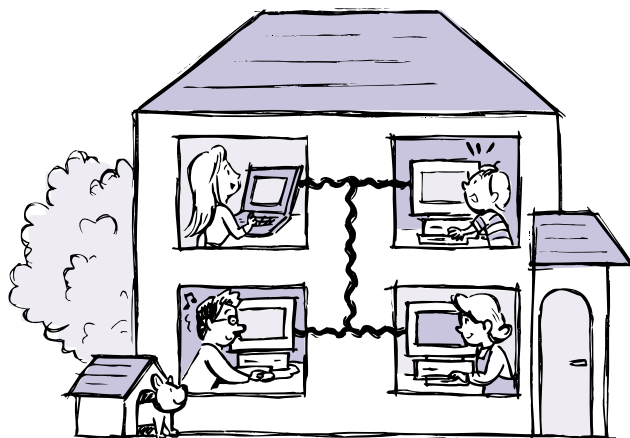
Step 4

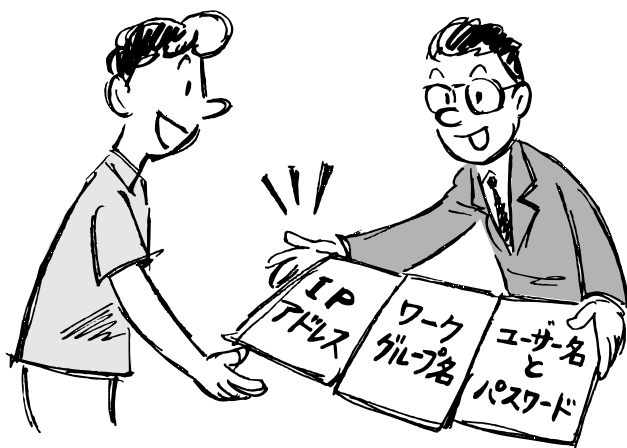
ネットワーク(LAN)に接続する

インターネットをはじめとした情報ネットワークの普及率は数年前とはくらべものにならないくらい高い水準を誇っています。それにともない、パソコンの普及率も高くなってきており、「一家に一台のパソコン」から「一人に一台のパソコン」になる日もそう遠くないようです。家庭内でもパソコンを通じたネットワークを構築する環境ができつつあります。WinBookを利用した小規模なネットワークの構築について、その概要を説明します。

1 LANとは

ここではLANについての仕組みなどについて簡潔に説明をします。

LANのしくみ

LANとはLocal Area Networkの略で、パソコン間でのネットワークのことです。LANの種類には、「クライアントサーバー」と「ピアツーピア」の2種類があり、それぞれに長所、短所があります。一般的に、「クライアントサーバー」型は大学や会社などの大規模なLANに、「ピアツーピア」型はSOHOや家庭内などの小規模なLANに適しています。本章では「ピアツーピア」の形式を中心に説明していきます。

■ LANに接続する前にネットワーク管理者に確認すること

LANを導入する場合では、通常、ネットワークの管理者が必要になり、ネットワークに接続するユーザーを管理します。ユーザーは、ネットワーク管理者から、ネットワークに接続するためのパスワードなど、さまざまな情報の提供を受けなければ、ネットワークに接続できません。

ネットワーク管理者からは、ネットワークに関する次の情報を、あらかじめ受け取ります。

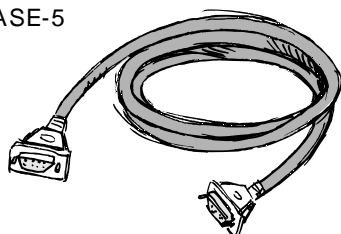
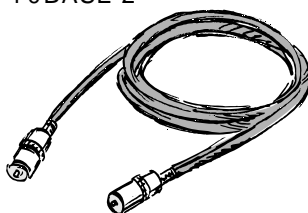
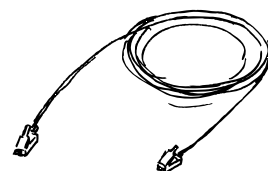
- **ネットワークに接続するパソコンのIPアドレス**
- **接続するネットワークのワークグループ名**
- **ユーザー名とパスワード**

LAN に必要なもの

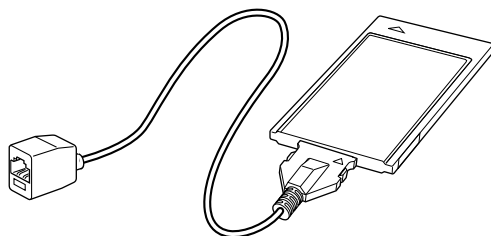
LAN に接続するには、次のものが必要です。
・ イーサネットケーブル
・ ネットワークカード(PCMCIA カード)
・ ハブ

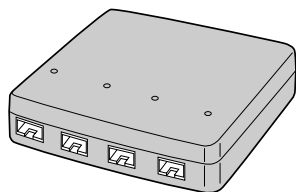
■ イーサネットケーブル

イーサネットケーブルには次の 4 種類のものがあります。
10BASE-5 規格、10BASE-2 規格のケーブルは太く、また、柔軟な運用ができないなどの欠点があり、小規模オフィスなどでは、安価でケーブルの取り回しが楽な 10BASE-T ケーブルによる接続が主流になっています。100BASE-TX ケーブルは、10BASE-T ケーブルと同様の形状ですが、最高 100Mbps の高速なデータ転送を実現させるために、より信号劣化の少ないカテゴリ 5 と呼ばれる規格のものを使用しています。

10BASE-5　10BASE-2

10BASE-T／100BASE-TX

■ ネットワークカード

パソコンのネットワークの入り口となるインターフェースカードです。10BASE-5、10BASE-2、10BASE-T、100BASE-TX 規格のそれぞれに対応したネットワークカードが市販されています。

■ ハブ

複数のパソコンをネットワークに接続するための中継器です。10BASE-T だけでなく、10BASE-T と 100BASE-TX を混在させて使用できるデュアルスピードハブもあります。

ネットワークの設定は使用状況によって異なります。専門書籍を参照するか、Windows ネットワークシステムの技術者にご相談ください。

Step 5

システムの設定を変える（BIOS）

（BIOS：バイオス）

WinBookの内部プログラムであるBIOSセットアッププログラムは、本体システム、およびパワーマネージメント機能の設定ができます。ここでは、BIOSメニューの操作方法と、基本的な機能について説明しています。

1 BIOSを設定する

ここではBIOSについての説明と、本機のBIOSの操作方法を説明をします。

■ BIOSとは

"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、具体的にパソコンを動作させるために必要となるプログラムを集めたソフトウェアのことです。
このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能も正しく引き出すことができるようになります。
本製品ではあらかじめ、最適の状態でBIOSの設定を行っています。ただし、本製品の拡張などを行った際には、それに合わせてBIOSの設定を変更する必要がある場合があります。

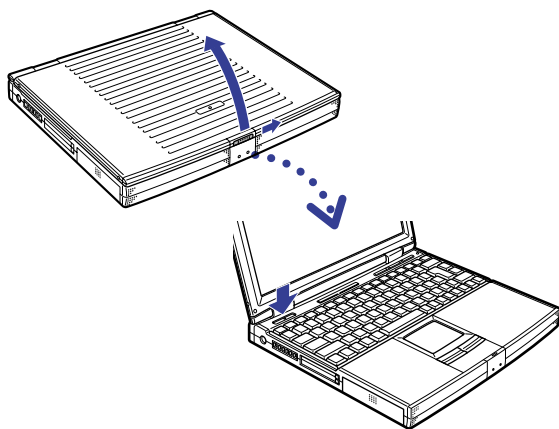
注意

BIOSの設定は複雑で、誤った設定をしてしまうと、本製品が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更することはお止めください。

アドバイス

リソースについて
誤った設定を行って本製品が正しく動作しなくなった場合には、BIOSが起動している状態で[F9]キーを押してください。
BIOSの設定を初期状態に戻してからWindowsを再起動します。

BIOSの起動

1

本製品の電源がOFFであることを確認します。

本機とモニタ電源スイッチを押して、電源をONにします。

2

"SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、[F2]キーを押します。
しばらくすると、BIOSの起動画面が表示されます。

■項目の選択・設定の方法

・左右の項目へ移動するには →← キー
・上下の項目へ移動するには ↓↑ キー
・サブメニューへ移動するには ↵ キー
・ヘルプを見るには F1 キー
・変更した設定を保存するには F10 キー
・サブメニュー・メニューを終了するには Esc キー

アドバイス

BIOS の詳しい操作方法については[スタート]→[はじめにお読みください]→[BIOS マニュアル]を参照してください。

BIOS の終了

■設定した内容を保存して終了する

① F10 キーを押します。

② メッセージが表示されるので、[Yes]にカーソルをあわせて ↵ キーを押します。

■設定した内容を保存せずに終了する

① [EXIT]→[Exit Discarding Changes]の順にカーソルをあわせて ↵ キーを押します。

② メッセージが表示されるので、[Yes]にカーソルをあわせて ↵ キーを押します。

2 BIOS の各メニューについて

BIOS の各メニューについての説明をします。

BIOS には次の６つのメニューがあります。またこのメニューの中にはさらにサブメニューがあります。

■ Main メニュー

内部のシステムロック(時分秒)やカレンダー(年月日)の設定、フロッピーディスクドライブ、ハードディスク、CD-ROM ドライブといったドライブの設定、キャッシュメモリの設定をします。

■ Advanced メニュー

本機のシリアルポートやパラレルポート、外部接続マウスなどの設定ができます。

■ Security メニュー

BIOS や Windows Me を起動するときに、パスワード入力を必要にさせる設定ができます。

■ Power メニュー

省電力で本機を動作させるなど、電源管理の設定ができます。Windows Me の電源管理機能(☞ 47 ページ)でも、設定できます。

■ Boot メニュー

本機を起動する際に、どのドライブから起動させるかを設定できます。
本機の電源を ON にすると、BIOS で設定した順番にドライブを検索して、一番最初に見つけたシステムファイルから Windows Me を起動します。

■ Exit メニュー

設定した内容を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選択できます。また、BIOS の設定を初期設定の状態に戻したいときも、この[Exit]メニューから選択します。

Step6
困ったときには

本機や本機に接続している周辺機器を使っていて、困ったことがあればこのStep6を参照してください。このステップでは良くある事例をもとに、Q&A形式で解決方法を説明しています。

1 故障かなと思ったら

トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行ってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテックテクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。☞ 別紙参照

■電源スイッチを入れても動かない

・ AC アダプタが正しく接続されていますか？
AC アダプタを正しく接続してください。(☞ 18 ページ)

・バッテリが充電されていますか？
AC アダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。(☞ 18 ページ)

・ AC アダプタが故障していることがあります。
他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばアダプタが故障している可能性があります。当社テクニカルサポートセンタへお問合せください。

・本体が故障していることがあります。
当社テクニカルサポートセンタへお問合せください。

■画面に何も表示されない、または見にくい

・電源は入っていますか？
「●電源スイッチを入れても動かない」参照
・ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。

・表示モードの設定が外部ディスプレイになっていて、外部ディスプレイの電源が OFF になっていませんか？
本機の電源を ON し直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチを ON にしてください。

■ハードディスクから立ち上がらない

・フロッピーディスクドライブがブートデバイスに設定されていて、かつフロッピーディスクがドライブにセットされていませんか？
フロッピーディスクを取り出して、キーボードのキーをどれか押してください。

■ Windows が起動しない

・メモリテストが正常に行われるのに起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。
システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。
(☞ 86 ページ)

・Windows のレジストリ(重要な設定が保存されているファイル)が壊れるなど、システムに何らかの障害が発生しています。また、前回、Windows が正常に終了できていません。
電源を入れた直後からしばらく F8 キーを押していると起動メニューが表示されます。ここで、「Safe モード」を選ぶと、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。また、「Step-by-step Confirmation」(各コマンドの実行を確認する)を選ぶと、起動コマンドを 1 つずつ確認しながら起動できます。Windows 起動時のトラブルの詳細については Windows のマニュアルのトラブルシューティングをお読みください。

■フロッピーディスクの内容が読み書きできない

・フロッピーディスクは正しくセットされていますか？
フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。

・フロッピーディスクはフォーマットされていますか？
フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。

・フロッピーディスクの内容が壊れていませんか。
壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。

・フロッピーディスク装置が故障していませんか。
別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。当社テクニカルサポートセンタへお問合せください。

・フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっていませんか？
ライトプロテクトノッチを書き込み可能な状態にしてください。(☞ 34 ページ)

・ 1.2MB フォーマットのフロッピーディスクがセットされていませんか？
本製品は、1.2MB フォーマットのフロッピーディスクは読み書きすることはできません。

・フロッピーディスクの空き容量が十分ですか？
不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

■いきなり画面が消えた

・電源コンセント、または AC アダプタのプラグが外れていませんか？
コンセントまたはプラグを差し込んでください。

・サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定した時間になるとレジューム/パワーセーブ状態に入ります。
何かキーを押すと元の状態に戻ります。また、サスペンドしている場合には電源スイッチを押してください。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使わないときは、システムコンフィグレーションとコントロールパネルの「電源の管理」の設定を変更してください。
(☞ 47、86 ページ)

■印刷できない

・プリンタの電源が入っていますか？
プリンタの電源を入れてください。

・プリンタケーブルが外れていませんか？
プリンタケーブルを正しく接続してください。

・印刷用紙が入っていますか？
印刷用紙を入れてください。

■外部 PS/2 マウスが動作しない

・接続ケーブルが外れている、または接続されていますか？
接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。

・電源投入後マウスを接続しましたか？
電源を再投入してください。

・DOS アプリケーションを使用していますか？
DOS アプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。

■押したキーと違う文字が表示される

・[Caps Lock 英数]、[Num Lock]、[カタカナ ひらがな ローマ字] などが間違って押されていませんか？
各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(☞ 30 ページ)

■音が鳴らない

・Windows のボリュームコントロールでミュートがチェックされていませんか？
ミュートのチェックをはずしてください。

■ビープ音が鳴っている

・バッテリ容量がなくなっていませんか？
AC アダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリパックを装着してください。

・AC アダプタのプラグが外れかかっている、または外れていませんか？
正しく接続し直してください。

■表示される日付や時刻が正しくない

・日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっていませんか？
Windows のタスクバーの時刻をダブルクリックして「日付と時刻のプロパティ」を起動します。「日付と時刻」画面で正しい日付や時刻を設定し直してください。

■サスペンド・レジュームできない

・システムコンフィグレーションは正しく設定されていますか？
システムコンフィグレーションを呼び出し、正しく設定を行ってください。(☞ 84 ページ)

・バッテリ容量はありますか？。
AC アダプタまたは充電済みのバッテリに交換し、再度電源を入れ直してください。
(☞ 18 ページ)

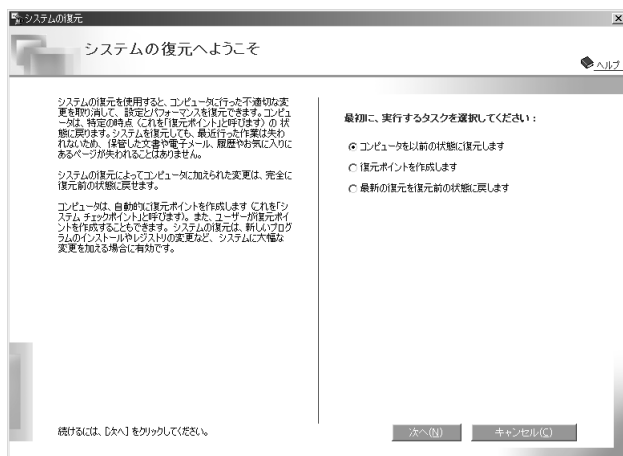
・コントロールパネル正しく設定されていますか？
コントロールパネルから「電源の管理」をダブルクリックして、設定が正しいかを確認してください。

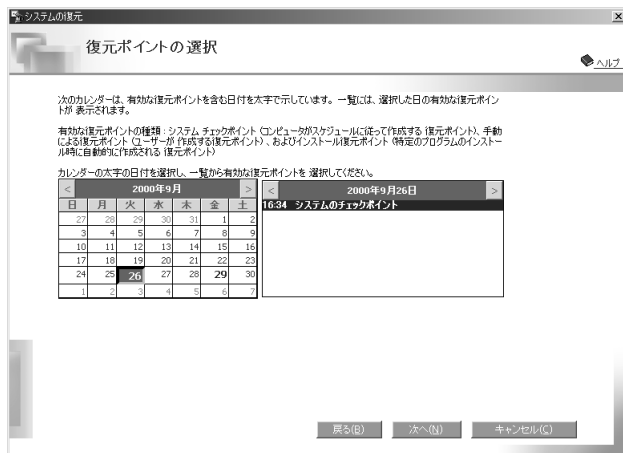
■ CPU クロックスピードが LOW スピードになる

・ CPU がオーバーヒートしている。
LOW スピードのまま使用してください。
一定の温度まで下がると、自動的に通常のスピードに戻ります。

ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。
ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて承っております。

システムを復元する

Windows Me ではシステムに異常が起きた場合に、以前のシステムの状態に戻すことでシステムの異常を修復する機能があります。また、任意のタイミングで、復元したいシステムを保存することも可能です。

①[スタート]メニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[システム復元]の順に選択します。
[システムの復元]の画面が表示されます。

②[コンピュータを以前の状態に復元します]にチェックを入れて[次へ]ボタンをクリックします。

③カレンダーからシステムを戻したいときの日付を選択して[次へ]ボタンをクリックします。

④続けて[次へ]ボタンをクリックします。
システムの復元が始まります。復元が終わると、自動的に再起動されます。

CD-ROM を使っていたら

CD-ROM で問題があった場合、ここをご覧ください。

■ CD-R/RW ドライブのディスクトレイが出し入れできない

・本機の電源は ON されていますか？
本機の電源を ON にして、イジェクトボタンを押してください。電源が切れている状態では出し入れできません。電源が ON になっているのに、ディスクトレイが出てこない場合は、ドライブ前面にある強制排出穴に細いピンを差し込んで、ディスクトレイを強制排出させてください。

・CD-ROM はセットされていますか？
CD プレーヤーやメディアプレーヤーの[取り出し]でディスクトレイを出せるのは、CD-ROM がセットされているときだけです。CD-ROM がセットされていない場合は、CD-R/RW ドライブのイジェクトボタンを押してください。

少し勉強

ディスクトレイは以下の方法でも出すことができます。
[マイコンピュータ]をダブルクリック→ CD-ROM ドライブのアイコンを右クリック→表示されたメニューの[取り出し]をクリックします。

■[D:\ にアクセスできません]と表示される（モデルにより、ドライブ番号が異なる場合があります）

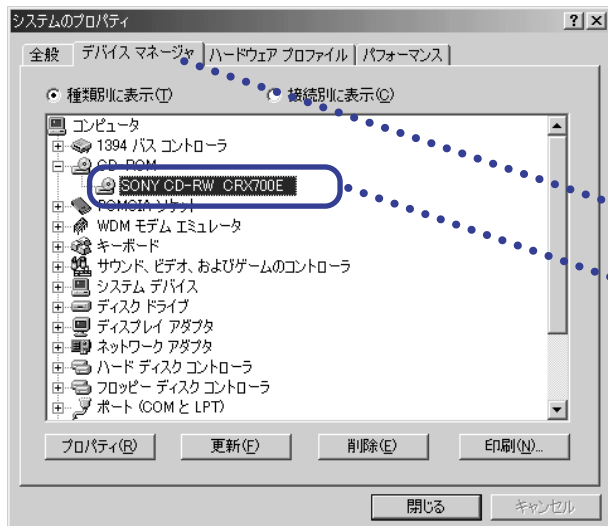
・CD-ROM がセットされていますか？
CD-ROM がセットされていない状態ではアクセスできません。

・CD-ROM をセットして、すぐにアクセスしようとしていませんか？
CD-ROM はドライブに挿入してから、認識するまでに若干の時間が必要です。ドライブのアクセスランプが消えたのを確認して、[再試行]ボタンをクリックしてください。

■[ドライブ D:の CD-ROM 読みとりエラー]と表示される

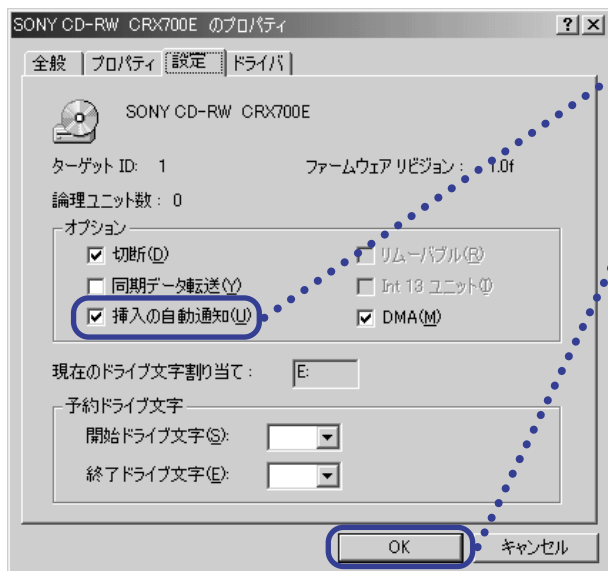
CD-ROM を再生中に、CD-ROM を抜き取りましたか？
CD-ROM から起動しているプログラムを実行中に、CD-ROM をドライブから取り出すと、画面が青く変り警告メッセージが表示されますので、画面の指示に従ってください。

■ CD-ROM をセットしても自動起動しない

ドライブは自動起動の設定になっていますか？自動起動の設定になっていないと、CD-ROM をセットしても自動起動できません。CD-ROM のプロパティで確認してください。

以下の手順で自動起動の設定を行ってください。

① [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。
　【システムのプロパティ】ウィンドウが表示されます。

② [デバイスマネージャ]のタブをクリックします。

③ [CD-ROM]の項目を選択し、自動起動に設定したいドライブの項目をダブルクリックします。
　※CD-ROM のドライブ名は機種によって異なります。

④ プロパティ画面の[設定]タブをクリックし、[挿入の自動通知]の項目をチェックします。（オンにします。）ここが[オン]になっていないと CD-ROM の自動起動ができません。

⑤ [OK]をクリックし、[閉じる]をクリックします。

⑥ 再起動を促すメッセージが表示されますので、[はい］ボタンをクリックします。

新しく接続したドライブ自体が自動起動に対応していない場合は、[マイコンピュータ]や[エクスプローラ]から CD-ROM ドライブへ直接アクセスしてください。

■音楽用 CD が音飛びする、CD-ROM のデータを読み出せない。

・CD-ROM は正しくセットされていますか？
CD-ROM の表裏を確認して、本機のディスクトレイの中心に正しくセットしてください。
CD-ROM は絵やタイトル文字が書かれている面を上にしてセットします。

・ CD-ROM に汚れや傷はありませんか？
CD-ROM が汚れている場合、乾いた柔らかい布で内側から外側に向かって拭いてください。
また、CD-ROM に傷がある場合、データを正常に読み出すことはできません。

・動作中になんらかの振動を本機に与えませんでしたか？
再生中／読み込み中に振動を与えるとデータの読み込みミスが起こります。本機に振動を与えないようにしてください。

■再生中の動画がとぎれる、再生がぎこちない

・他のアプリケーションと同時に実行していませんか？ CD-ROM の動画データを再生するには、本機の処理能力が多く必要です。このため、複数のアプリケーションを同時に使うと動画データの処理が追いつかなくなり、画像がとぎれたり、動きがぎこちなくなってしまいます。他のアプリケーションを終了させてください。

・画面設定は適当ですか？
画面の設定によっては再生に必要な処理能力が多く必要になりますので、解像度の確認をしてください。（例： 32 ビットカラーから 16 ビットカラーへ変更する、再生ウィンドを小さくする。）

・再生中に、ウィンドウの大きさや位置を変えませんでしたか？
動画を再生中にウィンドウの大きさや位置を変えると、音飛びや画像の乱れの原因になります。ウィンドウの大きさや位置を変えるときは、いったん動画の再生を停止／一時停止にして実行してください。

■動画の再生中に画面が消えてしまう

動画を再生中、省電力機能が働くと再生画面が消えてしまいます。動画を再生するときは、本機とディスプレイの省電力機能を OFF にしておいてください。

CD-ROM について

アプリケーションなどの CD-ROM は、一般に OS ごとに専用のソフトウェアやデバイスドライバなどが用意されています。本機では、Windows Me に対応した CD-ROM を用意してください。

音がおかしい

スピーカの音量を調整したいときにお読みください。

■音量を好みに調整する

[スタート]をクリックし[プログラム]→[アクセサリ]→[エンターテイメント]→[ボリュームコントロール]を選択してください。ボリュームコントロール起動後、各出力の音量をお好みの大きさに設定してください。音が出ない場合はミュート（消音）の項目にチェックが入っていないかご確認ください。ボリュームコントロールは、タスクバー右端のスピーカーアイコンをダブルクリックすることでも起動します。

■音が出ない

・音楽 CD ／ビデオ CD の再生音が小さい場合

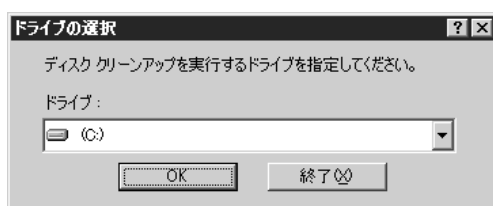
ボリュームコントロールで音量を調整してください。
（☞ 41 ページ）

ハードディスクの有効利用

ここではハードディスクを最大限に利用する方法を紹介します。

■ハードディスクの空き容量を増やすには

[ごみ箱]を整理する

ファイルを削除しても、ハードディスク上から実際には削除されず、デスクトップの[ごみ箱]に移動されただけの状態になっています。この「ごみ箱」を整理することで、ごみ箱に入っていたファイルの容量分だけハードディスクを空けることができます。
ごみ箱を空にする（ごみ箱内の全ファイルを削除）には、「ごみ箱」アイコンを右クリックして表示されるメニューから、[ごみ箱を空にする]を選択します。

ハードディスクの不必要なファイルを削除する

本機を使用しているとごみ箱に捨てたファイル、アプリケーションの一時作業用ファイル、インターネットの一時保存ファイル、使用されないアプリケーション、不要となったファイルなどが蓄積され、ハードディスクの容量不足の原因となります。
[ディスククリーンアップ]を使うと不必要なファイルを簡単に削除することができ、ハードディスクの整理を行うことができます。ディスククリーンアップは[スタート]ボタンから[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[ディスククリーンアップ]を選択すると起動します。

[ごみ箱]の最大サイズを変更する

ごみ箱の領域に使用するサイズは変更できます。ごみ箱に移動された全ファイルの容量が[ごみ箱の最大サイズ]を超えると、古いファイルから順に自動的に削除されます。ごみ箱の最大サイズを小さくしておくことで、ごみ箱にファイルがたまりにくくなります。
[ごみ箱の最大サイズ]の設定は、[ごみ箱]アイコンを右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選択し、【ごみ箱のプロパティ】ウィンドウで行います。

インストールされているアプリケーションやアクセサリを整理する

使用しないアプリケーションやアクセサリをハードディスク上から削除すると、ハードディスクの空き容量を増やすことができます。

ハードディスクを増設する

市販のハードディスクを増設することにより、容量そのものを増やすことをできます。

少し勉強

ファイルをゴミ箱にすてるだけでは、ハードディスクの空き容量は増えません

- **削除したり[ごみ箱]に移動したファイルは、ハードディスク上からすぐに削除された訳ではなく、一時的にごみ箱に移動しただけです。ごみ箱もハードディスク上にあるので、ハードディスクの空き容量は増えません。【ごみ箱】ウィンドウのメニューで削除して、はじめてハードディスク上からデータがなくなり、空き容量が増えます。**
  (注意：ごみ箱に格納されているファイルは、適当な場所に移動することによりもう一度復帰させることができますが、ごみ箱から削除すると復帰はできません。)
- **[ディスククリーンアップ]は[メンテナンスウィザード]でタスクに登録し、定期的に実行することができます。**
- **アプリケーション使用中は、一時作業用ファイルを削除しないでください。アプリケーションが動かなくなることがあります。**
- **添付されているアプリケーションの削除には[スタート]をクリックし、[設定]→[コントロールパネル]→[アプリケーションの追加と削除]を利用してください。市販のアプリケーションの削除については、アプリケーションに添付の取扱説明書をご参照ください。**

ハードディスクを増設したのに、2Gバイトしか領域確保できない

FAT16ファイルシステムで使用していませんか？ FAT16ファイルシステムで使用すると、1つの領域（パーティション）に2Gバイト以上の領域は確保できません。FAT16ファイルシステム上で2Gバイト以上のハードディスクを使用するには、ハードディスクを2Gバイト以下の複数の領域に分け、もう一度、ハードディスクのフォーマットを実行してください。

フォーマットを実行すると、ハードディスク内のすべてのデータは紛失されてしまいます。大切なデータはフォーマット前に必ずバックアップをおとりください。
大切なデータやシステム全体のバックアップは、Windows Meの[バックアップ機能]を使うと便利です。

スキャンディスクを実行すると再試行をくりかえし、エラーメッセージが表示される

スクリーンセイバーなどの常駐ソフトが起動していませんか？常駐ソフトがハードディスクへ頻繁にアクセスするために起きる現象です。スキャンディスクを実行する際には、常駐ソフトをあらかじめ終了させてください。

スキャンディスクのオプションで「完全チェック」を選択すると、警告メッセージが表示され、中断される

Windows Meがインストールされているドライブに対し、完全チェックを行うと「Windowsまたはほかのアプリケーションがこのドライブに書き込みを行っているため、再試行回数が10回に達しました。実行中のほかのアプリケーションを終了するとチェックが早く行われます。今後もこの警告メッセージを表示しますか？」と表示され、スキャンディスクが中断される場合があります。これはスキャンディスク以外に他のアプリケーションが動作しているために起きる現象で、この場合、他の実行中のアプリケーションを終了させてから、[はい]ボタンをクリックしてください。（ここで[キャンセル]をクリックすると、スキャンディスクが終了します。）

2 周辺機器が動かないときは

周辺機器を接続して、「機器が使えない」ときや「どうすればいいか分からない」ときにお読みください。比較的よく起こる問題と、解決方法もいくつか紹介しています。

周辺機器が動かない

■接続した周辺機器や本機がうまく動かないときは、まず次の内容について確認してください。

周辺機器の電源はONになっていますか？

外付けの周辺機器の場合、周辺機器にも電源が供給されていることが必要です。また、本機よりも先に電源をONにして起動することも重要です。

取り付けた周辺機器は、本機に対応しているものですか？

取り付けた周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器に添付の取扱説明書をよく読むか、周辺機器メーカーに問い合わせて確認してください。

ケーブルは正しく接続されていますか？

周辺機器と本機がケーブルで確実に接続されているか、そのケーブルが周辺機器に対応しているか、コネクタの位置は正常かを確認してください。

デバイスドライバは正常に組み込まれましたか？

周辺機器によっては、周辺機器を取り付けた後、本機にデバイスドライバやソフトウェアを組み込む（インストールする）必要があります。周辺機器に添付の取扱説明書をよくお読みになり、デバイスドライバを組み込んでください。

また、デバイスドライバは最新のものを使用することをお勧めします。最新のデバイスドライバは周辺機器メーカーのホームページから入手できます。

周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

複数の周辺機器を一度に接続すると、トラブルの原因が判りにくくなります。周辺機器は一つずつ確実に接続するようにしてください。また、逆に複数の周辺機器を使用していて動作が不安定になった場合、周辺機器を１つずつ外して動作を確認していくことで、トラブルの原因となっている機器を見つけ出すこともできます。

他の機器と競合していませんか？

SCSI機器の場合、他の周辺機器とID番号が重なっていると認識できません。他の周辺機器とID番号が重複していないか確認してください。また、その他にドライブ番号やリソース番号が重複していることも考えられます。ドライブ番号の変更や、リソースの割り付けを見直してください。（☞ 110ページ）

周辺機器を取り付けたらWindows Meが起動しない

このような場合、周辺機器のデバイスドライバが原因でWindows Meが起動できなくなったと考えられます。「Safeモード」でWindows Meを起動して、トラブルの原因と思われるデバイスドライバを無効にしてください。これで、Windows Meが正常に起動した場合、正しいデバイスドライバをインストールするか、デバイスドライバ自体を削除する必要があります。
周辺機器を取り付けるときは、周辺機器に添付の取扱説明書をよくお読みになってから接続してください。

次の操作にしたがって設定してください。

Safeモードで Windows Meを起動します。

① 本機の電源をONにします。
② メモリチェックが終了したら[F8]キーを押し続けます。
③ [Microsoft Windows Millennium Startup Menu]が表示されるので、[3.Safe mode]をキーボードで選択します。
④ ヘルプとサポートが起動します。

新しく取り付けた周辺機器のデバイスドライバを無効にします。

① [スタート]ボタンから[設定]→[コントロールパネル]の順に選択します。
②【コントロールパネル】ウィンドウ内の[システム]アイコンをダブルクリックします。
③ [デバイスマネージャ]のタブをクリックします。
④【デバイスマネージャ】ウィンドウに一覧表示されている、追加した周辺機器のアイコンをダブルクリックします。
⑤ 追加した周辺機器の【プロパティ】ウィンドウで[全般]のタブをクリックします。
⑥ [すべてのハードウェアプロファイルを使用する]のチェックを外します。(オフにします。)
⑦ [OK]ボタンをクリックします。

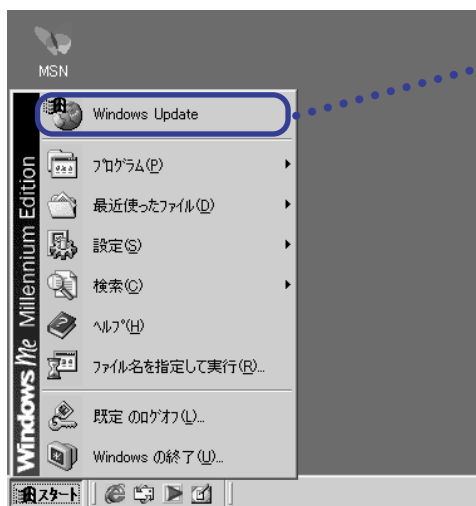
Windows Meを再起動すると、通常のモードでWindows Meが起動します。

この方法でもWindows Meが起動しない場合、本機の電源をOFFにしてから、新しく取り付けた周辺機器を外してください。

周辺機器を使いたいときはデバイスドライバを更新してみます。

周辺機器メーカーのホームページなどで最新のデバイスドライバを用意してください。

① [スタート]ボタンから[設定]→[コントロールパネル]の順に選択します。
② 【コントロールパネル】ウィンドウ内の[システム]アイコンをダブルクリックします。
③ [デバイスマネージャ]のタブをクリックします。
④ 【デバイスマネージャ】ウィンドウに一覧表示されている、追加した周辺機器のアイコンをダブルクリックします。
⑤ 追加した周辺機器の　【プロパティ】ウィンドウで[デバイスドライバ]のタブをクリックします。
⑥ [デバイスドライバの更新]ボタンをクリックします。

以降は画面の指示に従ってください。

最新のデバイスドライバは周辺機器メーカーのホームページからダウンロードする他に、「Windows Update」を行う方法もあります。「Windows Update」では、Microsoft社のホームページから最新のデバイスドライバをダウンロードし、周辺機器のデバイスドライバを更新できることがあります。「Windows Update」を行うには、[スタート]ボタンから[Windows Update]を選択してください。

新しいハードウェアを認識しない

周辺機器を接続しても、自動的に設定が始まらない

周辺機器に添付の取扱説明書には、本機の電源を ON にすると「新しいハードウェアが見つかりました」とメッセージが表示され、自動的に設定が始まるように書かれている場合があります。しかし、周辺機器によっては自動的に設定が始まらないものもあり、この場合は、以下の手順で周辺機器を認識させます。

① [スタート]ボタンから[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
② [ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックし、新しいハードウェアの追加ウィザードを起動させます。

以降は画面に表示される指示に従って操作してください。これで、Windows Me が新しい周辺機器を探しはじめます。
以降の操作については、画面に表示される指示、および周辺機器に添付の取扱説明書をお読みください。

この操作を行っても周辺機器を認識しない場合、ケーブルの接続や ID 番号などの設定内容を再確認してください。それでも認識されない場合は、手動で周辺機器の設定を行う必要があります。

電源を ON にするたびに、同じプリンタドライバをインストールするようメッセージが表示される

最初にプリンタドライバをインストールしたとき、正しくインストールされなかったことが考えられます。一度プリンタドライバを削除し、再インストールしてください。

① [スタート]ボタンから[設定]→[プリンタ]を選択し、[プリンタ]ウィンドウ内のプリンタのアイコンをすべて削除します。
② [新しいプリンタの追加]アイコンをダブルクリックして、再度、プリンタドライバをインストールします。

USB 機器のコネクタを差し込んだが認識されない

USB 機器は本機の電源を ON にしたままコネクタを抜き差しできますが、本機が USB 機器を認識するまでに数秒程度の時間かかります。また、急激にコネクタを抜き差しすると USB 機器が、何も反応しなくなることがあります。USB コネクタの抜き差しは、3 秒以上の間隔をあけて行ってください。USB 機器が何も反応しなくなってしまった場合は、Windows Me を再起動させ、再度 USB 機器を接続してください。

「Windows Me CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入して[OK] をクリックしてください。」というメッセージが表示された

周辺機器に付属のデバイスドライバをインストールする場合、このようなメッセージが表示されることがあります。この場合、以下のように対処してください。

①「Windows Me CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入して[OK] をクリックしてください。」と表示されている画面で、[OK]ボタンをクリックします。
②[ファイルのコピー元]を入力するウィンドウが表示されるので、「C:\WINDOWS\OPTIONS \CABS」と入力して[OK]ボタンをクリックします。
以降は画面の指示に従ってデバイスドライバをインストールしてください。

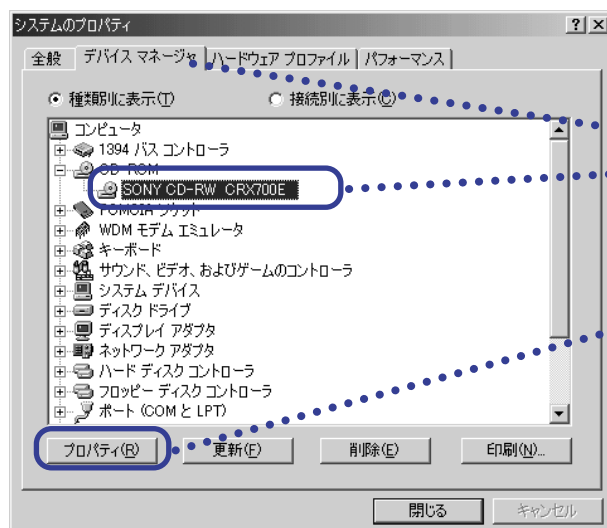
「デバイスドライバが見つかりません」と表示されてデバイスドライバのインストールができない

新しく周辺機器を接続してデバイスドライバをインストールする際、指定されたデバイスドライバのフォルダを選択したにも関わらず、「デバイスドライバが見つかりません」と表示される場合があります。
この場合、以下の方法でデバイスドライバのインストールを行ってください。

① [場所の指定]ダイアログボックスで、[完了]ボタンをクリックし、処理を終了させます。
② デバイスマネージャのウィンドウを表示させます。(☞ 105 ページ)
③ 新しく追加したデバイス名を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。
④ [ドライバ]のタブをクリックします。
⑤ [ドライバの更新]ボタンをクリックします。
【デバイスドライバの更新ウィザード】ウィンドウが表示されます。
⑥ [次へ]ボタンをクリックします。
⑦ [現在使用しているデバイスドライバよりさらに適したデバイスドライバを検索する（推奨）]が選ばれていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
⑧「検索場所の指定」をチェックして(オン）にして、周辺機器に添付の取扱説明書などで説明されているフォルダを指定します。
⑨ [次へ]ボタンをクリックします。

以降は画面に表示される指示に従って、デバイスドライバをインストールしてください。

デバイスドライバが見つからない

[ハードウェアウィザード]で、デバイスドライバの場所を指定しても、「このデバイス用のデバイスドライバが見つかりませんでした」と表示される場合、以下の手順でデバイスドライバをインストールしてください。

① [スタート]ボタンから[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
② [システム]アイコンをダブルクリックします。
③ [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
④ 該当するデバイスの項目をクリックします。
⑤ [プロパティ]ボタンをクリックします。

⑥ [ドライバ]タブをクリックします。
⑦ [ドライバの更新]ボタンをクリックします。

⑧【デバイスドライバの更新ウィザード】の画面が表示されます。
以降の操作については、画面の指示および周辺機器に添付の取扱説明書をお読みください。

SCSI機器がうまく動かない

取り付けたSCSI機器が正常に認識されない場合、以下の点をご確認ください。

ケーブルは各SCSI機器に確実に接続されていますか？

ケーブルが本機（SCSIボード）とSCSI機器に確実に接続されているかご確認ください。

ケーブルの品質は大丈夫ですか?

ケーブルが断線していないかテスターなどでご確認ください。また、SCSIでは高速データ転送を行うため、ハイインピーダンスケーブルをお勧めします。

ケーブル長は制限範囲内ですか？

SCSI-2使用時、SCSIケーブルの総延長は3m以内という制限があります。なるべく短いケーブルを使用し、制限を超えない範囲にしてください。

SCSIケーブルは適切なものですか？

SCSIケーブルは取り付けるSCSI機器のコネクタの形状により、使用するケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認し、対応したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

終端設定（ターミネータ）は正しいですか？

終端のSCSI機器に、終端設定が行われているかご確認ください。また、途中のSCSI機器には、終端設定は行わないでください。

SCSIカードは正常に認識されていますか？

SCSIカードが正常に組み込まれていない場合、SCSI周辺機器は認識されません。SCSIカードの確認は[コントロールパネル]→[システム]の[デバイスマネージャ]で確認してください。組み込みが正しくできていない場合、SCSIコントローラの項目に警告が表示されます。

ID番号の設定は正しくできていますか？

同じID番号を複数の機器で設定していると、各機器を認識できません。各機器のID番号が重複していないかご確認ください。また、ID番号は0～6の範囲で設定してください。

電源をONする順番は正しいですか？

起動時、本機より先に外部周辺機器の電源をONしないと、外部機器は認識されません。電源をONにする順番を間違えた場合、一度本体の電源をOFFにしてから再起動をしてください。（また、デバイスマネージャでSCSIコントローラを選択し、更新を選択すると認識する場合もあります。）

使用できるケーブルについて

使用できるケーブルについては、各SCSI機器に添付の取扱説明書やメーカーにお問い合わせください。

印刷できない、印刷がおかしい

印刷がうまくいかない原因として、プリンタの設定やケーブル、プリンタドライバ、アプリケーションの設定ミスなどが考えられます。次の項目をご確認ください。

プリンタの電源は ON になっていますか？

プリンタの電源を ON にしてください。

使用したいプリンタが[通常使うプリンタ]に設定されていますか？

以下の手順で設定を変更してください。

① [スタート]をクリックし、[設定]→[プリンタ]をクリックします。

② 【プリンタ】ウィンドウが開きますので、使用したいプリンタのアイコンを右クリックし、[通常使うプリンタに設定]に設定してください。

プリンタケーブルがはずれていたり、接触不良を起こしていませんか？

本体とプリンタが、プリンタケーブルで確実に接続されているか、ご確認ください。

プリンタの用紙切れ、トナー／インク切れになっていませんか？

プリンタに添付の取扱説明書に従って、用紙やトナー／インクを補充してください。

プリンタが印刷可能な状態になっていますか？

プリンタの状態が[印刷可]や[オンライン]の表示をしているかご確認ください。また、プリンタに添付の取扱説明書を参考に設定をご確認ください。

プリンタのテスト印字はできますか？

プリンタには一般的にテスト印字を行う機能があります。この機能を使ってプリンタの印字テストを行ってください。テスト印字ができないときはプリンタの故障が考えられます。プリンタの製造元にご相談ください。

プリンタケーブルの種類は適応ですか？

プリンタによっては、製造元の指定したケーブルを使わないと印刷がうまくいかない場合があります。プリンタに添付の取扱説明書で、使用するケーブルを確認してください。

プリンタの設定は正しいですか？

プリンタに添付の取扱説明書を参考に、設定が正しいかご確認ください。

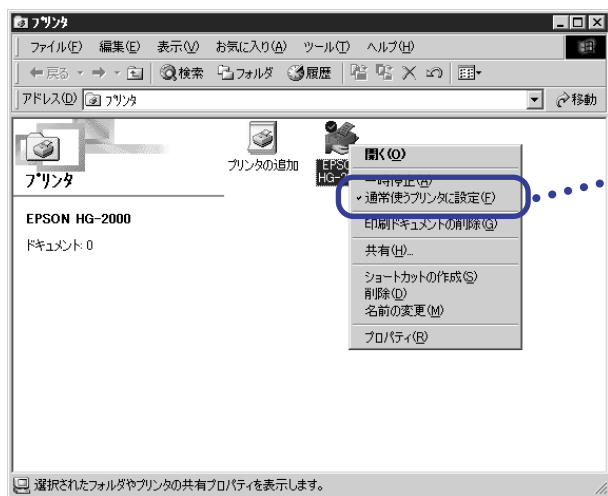
プリンタドライバは正しくインストールされていますか？

新しくプリンタを接続したときは、プリンタドライバのインストールが必要です。「ハードウェアの追加ウィザード」などを使い、インストールしてください。なお、なるべく最新のデバイスドライバを使用することをお勧めします。最新のデバイスドライバは周辺機器メーカーのホームページから入手できます。

プリンタドライバの設定を確認してください

プリンタドライバの設定によっては正しく印刷されないことがありますので、ご注意ください。デバイスドライバの設定に関してはプリンタに添付の取扱説明書を参考にするか、プリンタのメーカーにお問い合わせください。

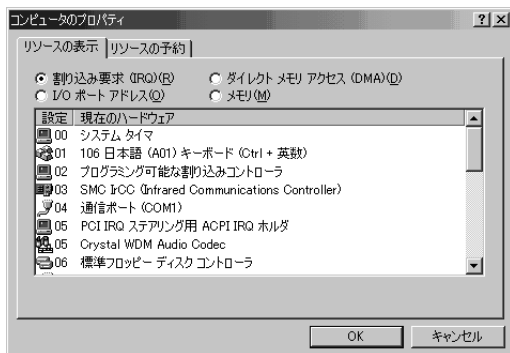
印刷とは関係のないウィンドウが開く

プリンタが[通常使うプリンタ]に設定されているか、以下の手順でご確認ください。

① [スタート]ボタンから[設定]→[プリンタ]を選択します。

② 【プリンタ】ウィンドウが開くので、使用したいプリンタのアイコンを右クリックして表示されるメニューから、[通常使うプリンタに設定]を選択してください。

3 リソースの競合について

本機には周辺機器を円滑に使用するため、[リソース]という概念があります。ここでは、このリソースについて少し説明します。

リソースとは

本機と周辺機器が円滑に情報をやりとりするための必要な設定項目で、[割り込み要求（IRQ）]、[DMA チャネル]の二種類に分けられます。
（左図はIRQの一例です。）

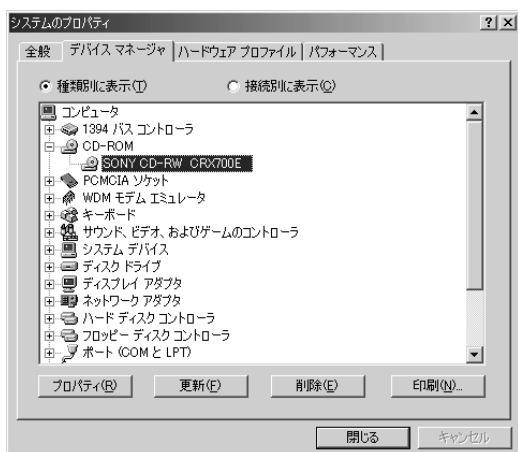
これらリソースの総数は限られており、その中で、それぞれの機器ごとにリソースの違う番号を割り当てます。本機を購入した時点では、すでにいくつかのリソースが使用されており、周辺機器を増設する際には、残りの番号にそれらの機器を割り当てることになります。

アドバイス

リソースについて

リソースについてさらに詳しく知りたい方は、市販の Windows Me の解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

リソースの競合とは

周辺機器を増設した際、通常は Windows が自動的にこれらのリソース設定を管理するので、自分で設定を変更したり確認する必要はほとんどありません。
しかし、場合によっては本機の自動設定では管理できず、同じリソース番号を複数の周辺機器に割当ててしまうことがまれにあります。この状態を「リソースの競合」と言い、競合した状態では周辺機器は正常に作動しません。

リソースの確認

増設した周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、[デバイスマネージャ]で調べることができます。

デバイスマネージャを表示したときに警告マークが付いていたら、その機器の[プロパティ]を表示させてみます。[デバイスの状態]の欄に[競合]を意味するメッセージが表示されていると、リソースの競合が発生しています。

リソースの変更

リソースが競合している場合、リソースの割り当ての変更が必要です。

デバイスマネージャでリソース番号の空きを調べその番号を割当てるか、当面使わない機器を一時的に[使用しない]に設定することで、その機器が使用していたリソースを解放し、新たに増設した周辺機器に割り当てることができます。リソースの割り当ての変更やリソースの解放は、デバイスマネージャで行います。

- **リソースの競合を避けるためにある機器のリソースを解放すると、その機器は使用できなくなります。再びその機器を使用する場合、リソースの再設定が必要です。**
- **機器によってはリソースの割り当て方に、制限がある場合があります。詳しくは、その機器に添付の取扱説明書をご覧ください。**

付　録

1 用語集

本機に関連する用語を説明しています。

bit

「ビット」と読む。データの大きさの単位のこと。
8bit=1Byte
と換算できる。
→ Byte

bps

「bit per second」の略で「ビーピーエス」と読む。通信速度の単位のこと。インターネットなどでよく使われる。
8Mbps で 1 秒間に 8Mbit(1MByte フロッピーディスク 1 枚弱くらい)の情報量が通信されるということになる。
→通信速度

Byte

「バイト」と読む。データの大きさの単位のこと。
1KB=1024Byte
1MB=1024KB
1GB=1024MB
と換算できる。
1Byte は半角文字 1 文字分のデータ量に相当する。
→ GB、KB、MB

CPU

「Central Processing Unit」の略で「シーピーユー」と読む。人間の体で例えるならば大脳にあたる。コンピュータの中心となる部分で、いろいろな演算や制御を行う。

dpi

「Dots Per Inch」の略で「ディーピーアイ」と読む。プリンタやスキャナなどでの印字の精密さを表す単位のこと。一般的にこの dpi の数値が高ければ高いほど、精密な印刷などができ、高性能の製品ということになる。

GB(Giga Byte)

「Giga Byte」の略で「ギガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1GB=1024MB である。
→ Byte、MB

Hz

「Helz」の略で「ヘルツ」と読む。周波数・振動数の単位で、コンピュータの CPU のクロック周波数を表すのによく使われる。一般的に CPU の Hz の数値が高ければ高いほど、その CPU は高性能である。
→ CPU、クロック周波数

JPEG

「Joint Industrial Standards committee」の略で「ジェイペグ」と読む。カラー静止画像の圧縮・伸長方式のこと。現在では国際標準の規格となっていて、コンピュータの機種に関係なくファイルの交換できるメリットがあることなどから、インターネットなどでよく使われている。

KB

「Kilo Byte」の略で「キロバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1KB=1024Byte である。
→ Byte

MB

「Mega Byte」の略で「メガバイト」と読む。データの大きさの単位のこと。1MB=1024KB である。
→ Byte、KB

MO

「Magnet Optical」の略で「エムオー」と読む。光磁気ディスクとも呼ばれていて、レーザー光を磁場を利用して高密度でデータを記憶できる円盤型の記憶媒体である。MO の特長は、記憶容量は 128MB ～ 1.3GB までのものがある。(2000 年 8 月現在)

MPEG

「Motion Picture Experts Group」の略で「エムペグ」と読む。カラー動画像の圧縮方式のこと。カラーの動画像データを再生するためには膨大な処理能力を必要とするので、そのための動画像を圧縮処理をする標準化したものを指す。
また、MPEG は音声圧縮も扱っており、mp3(MPEG Audio Layer-3)などが有名である。

OS

→オペレーティングシステム

RAM

英語のランダムアクセスメモリ(Random Acess Memory)の略で「ラム」と読む。自由に読み書きができるメモリのこと。プログラムのほとんどが、RAMに読み込まれてから動作するようになっている。また、データもRAMに読み込んでから処理される。
→メモリ

ROM

英語のリードオンリーメモリ(Read Only Memory)の略で「ロム」と読む。読み込むことしか出来ないメモリのこと。システムソフトウェアはROMに書きこまれていることが多い。

RS-232C

米電子工業会(EIA)によって規定されたコンピュータと周辺装置とのインターフェースの規格のこと。外付けのモデムに接続する場合、このインターフェースを利用するのが一般的である。

VRAM

「Video Graphics RAM」の略で「ブイラム」と読む。ディスプレイに文字や画像を表示するためのデータを書き込む、画像表示専用メモリのこと。文字を表示するテキスト用VRAMと、画像を表示するグラフィック用VRAMに分けられる。

Windows

「ウィンドウズ」と読む。「見ただけでわかる、誰でも簡単に操作できるOSを」という趣旨で、マイクロソフト社が開発したOSのこと。操作する内容は、ひと目でわかるさまざまな色のグラフィック(絵や図形)で画面に表示され、基本的なほとんどの操作は、マウスで行える。
→オペレーティングシステム(OS)

アイコン

マウスを使用するソフトウェアで、命令や処理を表現するために使用する絵文字のこと。

アプリケーションソフトウェア

文書作成、データ管理、表計算といった作業を実行するために開発されたソフトウェアのこと。

アンインストール

ハードディスクなどに組み込まれたソフトウェアをそのハードウェアから削除すること。

インストール

ソフトウェアをハードディスクに組み込んで使用できる状態にすること。

インターフェース

装置と装置の接続仕様のこと。通常、パソコン本体と周辺機器とをつなぐコネクタなどを指すことが多い。

オペレーティングシステム(OS)

ハードウェアとアプリケーションソフトウェアの間で、プログラムの制御や管理、入出力の制御などを行うためのソフトウェア全般のこと。Windowsもこれにあたる。
→Windows

カーソル

ディスプレイ上に文字や図形を入力、表示する位置を示すマークのこと。四角が画面上に点滅するもの、下線が点滅するものなどがある。

解像度

ディスプレイ上で表示するとき、どれだけ精密に表示できるかを示す基準のこと。ディスプレイの画面は、ドット(点)で表示されていて、このドット数が多ければ多いほど、ディスプレイの表示範囲が広くなる。

クロック周波数

パソコン本体に内蔵されているCPUの動作周波数のこと。同じCPUであれば、この数値が大きいほど、パソコンの処理速度は速くなる。
→CPU、Hz

コンピュータウイルス

電子世界でのウイルスはプログラムのことである。コンピューターウイルスに感染したコンピュータはデータが破損されるなどの症状を引き起こす。
→ワクチン

システムソフトウェア

オペレーティングシステムなど、コンピュータを動かすための基本的なソフトウェアのこと。

周辺機器

プリンタ、ディスプレイ、モデムなど、コンピュータ本体に接続して使用する本体以外の機器全般のこと。

初期化

周辺機器や記憶媒体を使用できる状態にすること。記憶媒体の場合、どこをどういう情報に書き込むか、どの情報を読むかなどコンピュータにわかるように、いわば区画整理をして、あるソフトウェアのもとで使用できる状態にすることをいう。

スキャナ

絵や写真などを画像データとしてコンピュータに取り込む周辺機器装置のこと。

スクロール

画面に表示する範囲を、上下左右に移動させること。

ソフトウェア

アプリケーションソフトウェア、システムソフトウェアなどプログラム全般のこと。コンピュータ本体、周辺機器などのハードウェアに対して、このように呼ばれる。

ダウンロード

一般的に、インターネット上にあるファイルを自分のコンピュータに転送すること。

通信速度

単位時間あたりのデータの伝送速度のこと。よく使われる単位として、bps(bit per second)がある。
→bps

デジタルカメラ

撮った画像をネガではなくデジタルデータとして保存するカメラのこと。撮った画像をコンピュータに転送したり、編集することが容易である。

デバイス

コンピュータに接続される周辺機器のこと。

デバイスドライバ

周辺機器をコンピュータと接続させて動かすときに、コンピュータが周辺機器を制御するために必要となるソフト。

ドライブ

一般的にフロッピードライブディスク、CD-ROM、ハードディスクなどの装置を指す。また、ハードディスク内などで論理的に分けられた場合などにもそれぞれを１つのドライブをする。

ネットワーク

複数のコンピュータを電話回線などの通信網でつないで、データのやりとりをする形態のこと。インターネットやLANもネットワークの一種である。

バージョン

ソフトウェアやハードウェアなどの開発された順序を示す表現。書籍などの第X版にあたる。通常は数値などで表現される。

ハードウェア

コンピュータ本体や周辺機器などの機械類を総称して、ハードウェアという。これに対して、ハードウェアを動かすプログラムのことをソフトウェアという。
→ソフトウェア

パラレルポート

主としてプリンタを中心とした、周辺機器とコンピュータを接続するためのコネクタのこと。

フォーマット

ディスク(記憶媒体)を初期化すること。あるいは書式のこと。

プラグイン

アプリケーションソフトウェアに追加機能を設定するためのプログラムのこと。

ポインティングデバイス

特定の指示した位置に入力をする装置の総称。マウスもポインティングデバイスの１つ。

補助記憶装置

メモリなどの主記憶装置を補うための記憶装置のこと。フロッピーディスクやハードディスクなどがそれにあたる。
→メモリ

マルチメディア

グラフィックス、サウンド、動画などを表現するメディアのこと。パソコン上ではこれらのメディアを、デジタル処理によって組み合わせて表現することもできる。

メモリ

主記憶装置のこと。CPU がデータを処理する際に、そのデータを一時的に保管する場所をいう。一般的にメモリには RAM が使われる。
→ RAM

モデム

「MODEM:MOdulator= 変調器、DEMoulator= 復調器」という変復調器の英語からの造語されたもので、データ(情報)通信に用いられる機器のこと。電話回線の音声信号(アナログ信号)をコンピュータが処理できるデジタル信号に変調したり、あるいは、この逆の処理(復調)を行う。

ワクチン

コンピュータウイルスを発見・修正するためのプログラムのこと。
→コンピュータウイルス

2 索　引

付録